



地域連携 学生フォーラム in 大阪
2019

地域連携 学生フォーラム in 大阪 2019

報告集

Student Forum in Osaka

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

目 次

○はじめに	1
○次 第	2
○発表概要	
学生発表① 追手門学院大学 経営学部 ベンチャービジネス研究所 和食店のふるさと納税返礼品に供するブランド拡張の研究	3
学生発表② 大阪産業大学 経営学部 商学科 野崎参道商店街における学生と地域との価値共創活動	15
学生発表③ 大阪電気通信大学 工学部環境科学科 資源工学研究室 寝屋川の水辺を守る活動ー大学と市民と行政の協働	41
学生発表④ 摂南大学 摂南大学 PBL プロジェクト 地域の特産物を用いた大学ブランド商品の企画・開発・販売	49
学生発表⑤ 大阪成蹊大学 マネジメント学部 東出ゼミ生 4 名 「食」を通じた地域活性化に向けた取り組み～大阪池田チキチキ探検隊～	68
学生発表⑥ 大阪大学 NPO 法人日本教育再興連盟（研究主体としては大阪大学） 東日本大震災の被災地における子ども支援活動	83
学生発表⑦ 大阪人間科学大学 人間科学部理学療法学科 3 年生 奥研究室 大学理学療法学科学生が関わる地域連携事業 「地元自治会と大学理学療法学科との連携による健康寿命延伸を 目的とした地域在住高齢者への運動指導」	93
学生発表⑧ 近畿大学 総合社会学部 学生 布施商店街活性化プロジェクト「ふ・せ・の・わ～笑う商には学生来たる～」	107
学生発表⑨ 森ノ宮医療大学 看護学科学生及びボランティアサークル「IRIS（アイリス）」 大学における地域連携推進事業への参加	109
○当日の様子	119
○学生企画メンバー活動の様子	120
○学生企画メンバーアンケート集計	123
○参加者アンケート集計	126
○広報用チラシ	137

はじめに

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪
地域連携部会長 荻田 喜代一
(摂南大学 学長)

地域連携学生フォーラムは、会員大学の学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等の内容について発表し交流することを目的に、年に一度開催しています。このような発表交流会を通じて、学生の地域連携に取り組む意識の高揚や自己点検を促進するとともに、地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体関係者等で共有し、会員大学の地域連携活動を醸成する機会としています。

6回目を迎える今回は、「5カン（地域・体験・つながり・発見・吸収）」をテーマに、7大学21名の有志学生が本フォーラムの企画・運営メンバーとしてミーティングを重ね、「学生による、学生のためのフォーラム」が実現しました。

今回は台風の影響により、例年の開催時期（10月）から2月へと延期になったことから、あいにく参加が難しくなった大学もありましたが、当日は7大学7事業の発表がありました。また、それぞれの発表に対して参加者間の意見交換を行うなどの積極的な相互交流の場が設けられました。これらの試みはすべて学生企画・運営メンバーのアイデアによるものです。

これらの発表や意見交換を通じて、参加者が各大学の特色を生かしながら、地域固有の事情を踏まえたユニークな「地域連携」が体现されていることを知り、また今後の活動への応用、工夫へと繋がる契機になったことと思います。

この報告集は、延期により発表が叶わなかった2事業を含めた内容を取りまとめたものであり、大学コンソーシアム大阪のホームページでも公開予定としておりますので、皆様の活動に広くお役立ていただければ幸いです。

最後に、本フォーラムの開催に際しまして、ご協力いただいた関係各位に心より御礼申し上げます。

2020（令和2）年3月

地域連携 学生フォーラム in 大阪 2019

次 第

◆日 時：2020（令和2年）年2月11日（火・祝） 10：00～17：00

*参加者間交流会：16：00～17：00

◆会 場：大阪学院大学 2号館（吹田市岸辺南2-36-1）

◆講評者：大学コンソーシアム大阪

地域連携部会 部 会 長 荻田 喜代一（摂南大学 学長）

地域連携部会 推進委員長 久 隆浩（近畿大学 総合社会学部 教授）

時 間	発表大学		内 容
10：00-10：05	開会挨拶（趣旨説明）		
10：05-11：05	学生発表①	追手門学院大学 経営学部 ベンチャービジネス研究所	和食店のふるさと納税返礼品に供するブランド拡張の研究
	学生発表②	大阪産業大学 経営学部 商学科	野崎参道商店街における学生と地域の価値共創活動
	学生発表③	大阪電気通信大学 工学部環境科学科 資源工学研究室	寝屋川の水辺を守る活動 —大学と市民と行政の協働
11：05-11：25	ミニ交流タイム		
11：25-11：35	休憩		
11：35-12：15	学生発表④	摂南大学 PBL プロジェクト	地域の特産物を用いた大学ブランド商品の企画・開発・販売
	学生発表⑤	大阪成蹊大学 マネジメント学部 東出ゼミ	「食」を通じた地域活性化に向けた取り組み～大阪池田チキチキ探検隊～
12：15-12：35	ミニ交流タイム		
12：35-13：35	昼食休憩		
13：40-14：00	大阪市市民局、西淀川区役所 情報提供		
14：00-14：20	学生発表⑥	NPO 法人日本教育再興連盟 (研究主体としては大阪大学)	東日本大震災の被災地における子ども支援活動
14：20-14：50	学生発表⑦	大阪人間科学大学 人間科学部 理学療法学科 3年生 奥研究室	大学理学療法学科学生が関わる地域連携事業 「地元自治会と大学理学療法学科との連携による健康寿命延伸を目的とした地域在住高齢者への運動指導」
14：50-15：15	休憩・メッセージタイム		
15：15-15：30	会場移動		
15：30-15：50	閉会挨拶・会場転換		
16：00-17：00	参加者間交流会（発表者へのメッセージカード贈呈）		

発表概要

学生発表①

活動テーマ	和食店のふるさと納税返礼品に供するブランド拡張の研究
活動場所	追手門学院大学ならびに成田家
連携先	茨木市、日本料理成田家（茨木市）
活動主体	追手門学院大学 経営学部 ベンチャービジネス研究所

1. 活動概要

追手門学院大学と茨木市の産学連携事業の一環として地元の日本料理店「成田家」の創業当時の名物料理「鶏（とり）のすき焼き」をふるさと納税の返礼品として復活させ、ブランド化に向けたプロデュースを実施。追手門学院大学、茨木市、成田家の産学連携によって茨木市の「地域ブランド拡張」を図る。

経営学部の教員と学生によるプロジェクトチームを結成し、茨木市からの補助金を得て、2018年度の産学連携事業をスタートアップさせる。日本料理店「成田家」で昭和36年の創業時に提供されていた「鶏のすき焼き」。地元ならではの懐かしさを感じられることから、ふるさと納税の返礼品による缶詰の製品化をプロデュースする。料理そのものは成田家が担当し、プロジェクトチームでは一般消費者に対するマーケティング調査や心理学実験を実施し、一般消費者の視点や意見を反映させた企画・パッケージデザイン・Webサイト上のキャッチコピー作成を行った。

2. 年間計画

2018年

- 9月1日 パッケージング予備調査、「ふるさと納税に関する1次資料調査」ふるさと納税に関連した状況を全般的に把握し2次調査に取り組むための準備調査。
- 9月24日 秋のガンバル市茨木神社（広告宣伝）
- 10月1日 パッケージ図案企画、Webサイト上の言語表現に関する調査、パッケージの型に関する調査と型の決定。
- 11月1日 「アンケート作成作業」茨木市民の持つ「ふるさと納税に関する意識」と「成田家に関する意識及び試作品に関する感想」を測定するためのアンケート作成。
- 11月16日 図案に関するアンケート調査の準備。
- 12月1日 アンケート調査実施 茨木市茨木阪急本通商店街 茨木にぎわい亭で開催の「冬のガンバル市」にて、「ふるさと納税&ふるさと納税返礼品に関する設問」をテーマとしたアンケート調査を実施した。アンケート調査は、「冬のガンバル市」に参加した、一般市民約200人程度を対象として行った。
- 12月 アンケートデータ入力&分析。
- 12月3日 図案アンケート分析と図案決定。
- 12月21日 Webサイト掲載文作成。

2019年

- 1月11日 茨木にぎわい亭「第2回いばたま（茨木マイスターズ主催）」に参加。
- 2月23日 成田家焼酎の会にて広告宣伝を実施。
- 3月1日 茨木にぎわい亭「第4回いばたま（茨木マイスターズ主催）」に参加。
- 6月30日 追手門学院大学ホームカミングデーにて広告宣伝ならびに試食会を実施。

8月17・18日 追手門学院大学オープンキャンパスにてポスター発表を実施。

9月23日 追手門学院合同イベント「おうてもんパビリオン」にてポスター発表および試食会を実施。

2020年

2月19日 ファベックス 惣菜べんとうグランプリ2020冷凍・チルド部門 優秀賞受賞

3. 活動成果

完成した「鶏のすき焼缶詰」は、1缶290グラムで、国産の鶏もも肉と、豆腐、白ねぎ、えのき茸、椎茸（地場産野菜）などを、創業当時のレシピの割下で甘辛く仕上げた。温めるだけで当時の味を楽しめるものとなっている。パッケージには、同商品を使って簡単にできる「鶏肉うどん」や「すき焼き丼」などのアレンジレシピや、昭和の懐かしい味であることをアピールしたメッセージが記載されている。

茨木市ではふるさと納税の返礼品として専用サイトで取り扱いをはじめているほか、市内のJAの直売所「みしま館」でも1つ700円で販売。茨木市の地域ブランドとして、全国への発信を目指している。

4. 地域からの評価

7月30日に茨木市福祉文化会館で中小企業者の大学との連携による新技術、新製品、新サービスなどの研究開発等への取組を推進するため、中小企業者と大学関係者との交流が図れる機会として「産学連携交流サロン」開催された。その際産学連携の発表を行い、他大学や茨木市、関係諸団体からの評価を受けた。

5. 参考WEBサイト

Facebook 追手門学院大学経営学部

<https://www.facebook.com/Otemon.Management/posts/2300179763576940/>

さとふる https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=1076601

日本料理 成田家 <http://ibaraki-naritaya.com/>

6. 活動メンバー

勝連慎、北端聡一郎、平川香澄、矢川実咲、仮谷優花、兵庫沙耶花、森下怜美

7. 担当教員

経営学部准教授 村上喜郁、経営学部准教授 朴修賢、経営学部准教授 長岡千賀

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	追手門学院大学	
所属先・職名	経営学部 准教授	
氏 名	村上 喜郁	
連絡先	電 話	072-641-7842 (研究室)
	メー ル	ymura@otemon.ac.jp (※連絡はメール優先でお願いします。)

9. 活動の様子



和食店のふるさと納税返礼品 に供するブランド拡張の研究

追手門学院大学

発表者：経営学部 村上喜郁ゼミ

活動概要

「地域ブランド拡張」をテーマに追手門学院大学と茨木市の産学官連携事業で地元日本料理「成田家」の名物料理「鶏（とり）のすき焼き」をふるさと納税返礼品として缶詰製品化をプロデュースした。

事業の3主体



【産】

日本料理成田家



【学】

追手門学院大学



【官】

茨木市

3

事業の3主体の狙い



事業多角化
ブランド拡張
新商品開発

ふるさと納税返礼品

売上向上
経営安定化



地域・社会貢献

PBL (Problem
Based Learning)

教育プログラムの
多様化
研究資源・成果
大学広報



地域企業支援

産学連携スタート
アップ支援

茨木市の活性化
地域創生

4

成田家の課題とその背景

【日本料理 成田家】

- 2018年6月18日大阪府北部地震発生
(インフラ停止時に営業が出来ない状況に)
- 事業の発展を目指す場合店舗規模、席数の制約

5

課題へのアプローチ

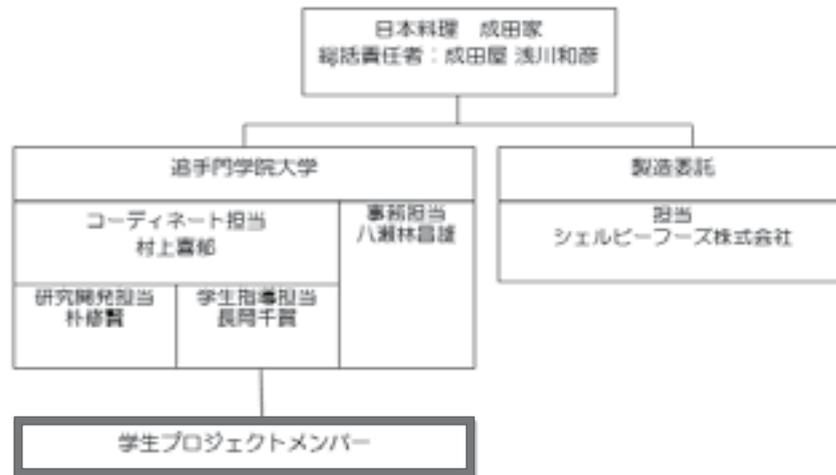
追手門学院大学との連携で
第2のブランド開発



事業経営の安定化・事業リスクの分散・事業発展

6

本活動の学生の役割



7

本活動の学生の役割分担

市場調査 (担当:長岡ゼミ)

パッケージ開発 (担当:長岡ゼミ)

WeBサイト掲載文作成 (担当:長岡ゼミ)

アンケート実施 (担当:村上ゼミ)

広報活動 (担当:村上ゼミ)

8

市場調査（１）（担当：長岡ゼミ）

・ パッケージ予備調査

既存の人気駅弁、ふるさと納税返礼品/市販の缶詰 計約160件のパッケージ画像を収集し、KJ法で分析した。

分析結果に基づきパッケージの図案企画。



9

市場調査（２）（担当：長岡ゼミ）

・ 型に関する調査

パッケージ方法でスリーブ型、シール型消費者にとってどちらが利用しやすいか？

一般消費者に2種類の缶を渡して缶詰の収納について行動観察し、その後面接法を用いた意見徴収を行った。



10

市場調査（3）（担当：長岡ゼミ）

・ 型に関する調査結果

スリーブ型はパッケージを大きく載せられるが、幅をとってしまい紙製のスリーブは長期保存による劣化が懸念された。

シール型は缶詰本体にパッケージを載せている為、スリーブ型のように劣化せず保存の幅をとらない長期保存に向いている為、シール型の採用となった。

11

パッケージ開発（担当：長岡ゼミ）

上品なデザイン案



親しみやすいデザイン案



パッケージ図案企画で協議の上、2つのデザイン案が候補となった。

アンケート調査で一般消費者を対象に、候補2つのうち1つを選択してもらった。（約110人が回答）¹²
結果、「上品」なデザイン案のほうが多数の結果

Webサイト掲載文作成（担当：長岡ゼミ）

- Webサイト掲載において魅力的な言語表現、視覚的表現が必要となる。
- 人気のある弁当や、ふるさと納税サイト「さとふる」の缶詰の合計155件から説明文等のテキストマイニングによって、単語の対応関係や言語表現の特徴を検討。この結果を踏まえ掲載文を作成した。

13

アンケート実施（担当：村上ゼミ）

- 冬のガンバル市（2018年12月1日）



「ふるさと納税に関する意識度」
「成田家に関する認知度」
「缶詰の試作品の評価」
のアンケートを一般市民
（約200人）を対象に行った。

14

広報活動（担当：村上ゼミ）



2019年6月30日ホームカミングデー
試食、ポスター発表

2019年8月17. 18日オープンキャンパス
ポスター発表

2019年9月23日おうてもんパビリオン
試食、ポスター発表

2019年6月24日朝日新聞に掲載
『缶詰「鶏のすき焼き」を全国に
追手門学院大生ら』

15

活動成果（1）完成した製品

具たくさんで大満足！
鶏のすき焼き缶 290g



ふるさと納税返礼サイト「さとふる」掲載
JA直売所「みしま館」1缶700円販売
「イオンスタイル茨木」販売予定

16

活動成果（２）それぞれの成果



日本料理 成田家

- ・ 新商品「鶏（とり）のすき焼き」
- ・ 売上向上



追手門学院大学

- ・ PBL型プロジェクトの実施
- ・ 研究成果・大学の認知度向上



茨木市

- ・ ふるさと納税の寄附金
- ・ 地域ブランド拡張

17



追手門学院大学

本事業を通じて、参加学生メンバーは大学で学んだ経営学の知識や理論の実践的な経験の場を持つことができた。また、大学の地元である茨木市と地域連携について考える良い機会ともなった。今後も大学生として地域振興に役立つ活動を続けたい。

参考引用： 朴 修賢准教授：茨木市産学連携交流サロン
長岡 千賀准教授：心理学的検討による缶詰パッケージング企画
茨木市：<https://www.city.ibaraki.osaka.jp/kurashi/index.html>
日本料理 成田家：<http://ibaraki-naritaya.com/>
朝日新聞：<https://www.asahi.com/articles/ASM5R3K37M5RPPTB001.html>

18

学生発表②

活動テーマ	野崎参道商店街における学生と地域との価値共創活動
活動場所	大東市
連携先	野崎参道商店街、介助犬ひろば
活動主体	大阪産業大学経営学部商学科

1. 活動概要

2019年度は、学生がアクティブラーニングの一環として野崎参道商店街において夏祭りの企画とバリアフリーの調査結果を掲載するHPを制作している。野崎参道商店街と大阪産業大学は地域活性化の協定を締結している。毎月第三水曜日に商店街の振興組合事務所に学生が集合して『商店街大学』を開催している。『商店街大学』は毎回オープンで実施されており、商店街役員や地域住民、地域組織と一緒に地域活性化について議論している。『商店街大学』をきっかけとして学生は商店街副理事長が取り組む生活サポート、地元企業の川村義肢株式会社の社会貢献事業の介助犬ひろばの活動など多くの地域活性化の事業に積極的に取り組んでいる。これまでに、夏祭り企画、秋の祭り企画、歳末抽選会の企画などを行ない商店街から高い評価を得られるようになってきた。学生たちは自分たちの発想や力が地域活性化に貢献できることを体験することで自らの学びや成長につなげている。

2. 年間計画

1. 商店街夏祭り企画
4月～7月
夏祭りの企画、『商店街大学』でのプレゼン
8月24日
夏祭り台風で中止
10月16日
『商店街大学』
10月20日
四条ふるさと祭りへ出展
12月14日
大東商工会議所モノづくりワークショップへ出展
2. 介助犬のひろばホームページ作成 <https://servicedogsquare.com/>
ホームページをワードプレスで制作するための勉強会の実施
7月までに基本的なレイアウトの制作
介助犬のひろばのユニバーサルマップ、ワンダフルマップの制作
12月1日
介助犬のひろばイベントでホームページの披露

3. 活動成果

1. 商店街大学

大学生は地域活性化へ向けた企画の提案として、映像企画、夏祭り企画、幟制作、お絵かきどおり、シールアート、タペストリー、野崎 SunSun (さんさん) フリマ、ゲートを作成、4種の学生パン開発、歳末抽選会、オリジナルの商店街大学賞などの企画を実施した。リアルの情報発信では、タウン誌、配布ビラ、冊子などを活用した。SNSではユーチューブ、商店街のSNS(ホームページ・フェイスブック)、地域のSNS(大東四條畷ネット、理事長のSNS)さらに、地域メディアのジェイコム(J:COM)に出演した。

2. 介助犬のひろばホームページ作成

<https://servicedogsquare.com/>

4. 地域からの評価

これまでの夏季企画では学生がイベント企画を考案した。学生がイベントに参加することで理事長などの一部の役員に集中的にかかっている負担の軽減化に貢献した。たとえば、幟を商店街に立てる、撤去する仕事の手伝い。夏祭り、四条ふるさと祭りなどの企画と当日の運営、歳末抽選会への自主的参加などである。商店街内に幟を立てる業務は商店街の役員が実施しているが、2人で半日はかかる重労働である。余裕のある時代はこれらの業務を商店街の組織や役割分担で担うことができたが、現在は店主の高齢化、組織の弱体化、資金不足で、特定の役員に負担が集中している。このような、今までに顕在化しなかった商店街の運営面の課題は若者や学生の参画があることで解決できる。さらに、学生が積極的にボランティア活動に関わっていることから介助犬のひろばから表彰を受けた。

5. 参考WEBサイト

野崎参道商店街『商店街大学』

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/8260.html>

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/8119.html>

介助犬のひろば

https://servicedogsquare.com/information_nozaki/

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/7793.html>

6. 活動メンバー

商学科 3回生

井上元貴、横谷匡俊、米田俊平、福山宏亮、渡辺隼人、茨池彩、高垣朱音、田川美沙希、山邊悠平、文山達示、宮里愛弥 他

7. 担当教員

商学科 教授 藤岡芳郎

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪産業大学	
所属先・職名	教育研究推進センター地域社会連携課	
氏 名	竹内 行弘	
連絡先	電 話	072-875-3001 (内線 2819)
	メー ル	take@cnt.osaka-sandai.ac.jp

学生と地域との価値共創活動

地域連携 学生フォーラム
in 大阪 2020



 大阪産業大学 OSAKA SANGYO UNIVERSITY

地域活性化の活動

- 大阪産業大学は野崎参道商店街や大東商工会議所などと連携して地域活性化の活動を実施。
- 野崎参道商店街では毎月第三水曜日に商店街の振興組合事務所に学生が集合して『商店街大学』を開催。



地域活性化の活動

- 『商店街大学』は関心のある方は誰でも参加できるオープンな形で実施。
- 学生は商店街役員や地域住民、地域組織と一緒に地域活性化について議論。
- 『商店街大学』をきっかけとして学生は地元企業の川村義肢株式会社の社会貢献事業の介助犬ひろばの活動、地域ボランティア、大東青年会議所の活動など多くの地域活性化の事業に積極的に取り組んでいる。

報告する事例

1. イベント企画



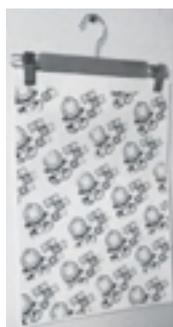
2. 介助犬のひろばホームページ作成

3. その他の地域活性化



昨年度の
大阪府大東市野崎参道商店街商店街 企画

昨年度は、映像企画、夏祭り企画、幟制作、お絵かきどおり、シールアート、タペストリー、野崎SunSun(さんさん)フリマ、ゲートを作成、4種の学生パン開発、歳末抽選会、オリジナルの商店街大学賞などの企画を実施した。



本年度のイベント企画

- IoTパズル企画
- バルーンアート
- エコキャップ

IoTパズル企画内容

- 野崎参道商店街夏祭りにて、来場された親子様向けのIoT製品の体験会を実施
 - 夏祭りを盛り上げるため、子供の集客が狙い

- 野崎参道商店街での取り組み「猫の里親会」

- 大東市の取り組み「介助犬ひろば」

- これらの取り組みを、体験会を通じて来場された皆様に知って頂くきっかけをつくる狙い



IOT製品の製作

- 体験会に使用するIoT製品は、
 - 「株式会社 山崎木工所様」
 - 「株式会社 まちんぐ様」
 のご協力を得て製作。

- 「猫の里親会」と「介助犬ひろば」の取り組みに関連して、製品のデザインは犬と猫の絵柄パズルにした。



企業紹介

株式会社 山崎木工所様

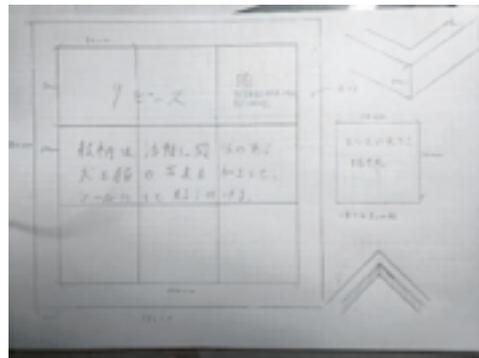
株式会社 まちんぐ様



体験会に使用するIOT製品

製品名 犬と猫のパズル

- 機能 遮光センサー、スピーカーを内臓し、完成させると犬や猫の鳴き声が鳴る
- 製品コンセプト
 1. 親子で楽しめる玩具
 2. IOTの仕組みを分かり易く学べる
 3. 児童向けの可愛らしい絵柄
 4. 難しくない難易度

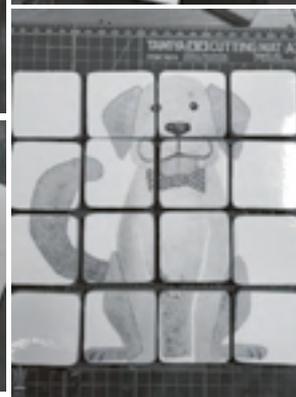


活動記録

- 製作にご協力して頂く為
(株)山崎木工所様
(株)まちんぐ様
に、プレゼンを行った



- 商店街大学での企画発表



- IOTパズルの組み立て



活動記録2

- 大阪産業大学 経営学部
商学科 オープンキャンパス
にて、企画から一連のプロ
セスを発表しました。



活動記録3

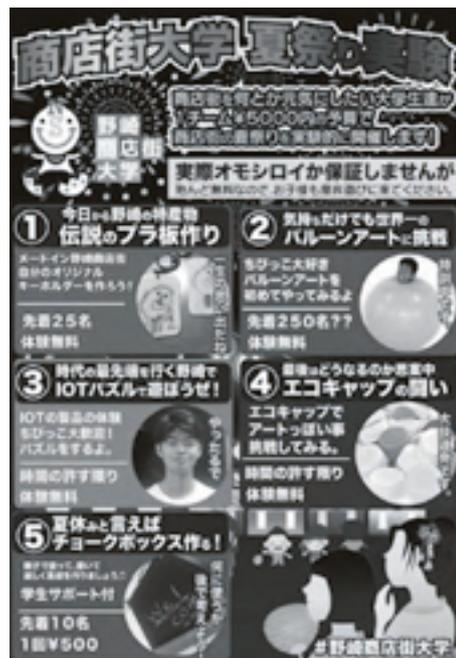
➤ 各イベントへの参加

- ・10月20日 野崎参道商店街ふるさと祭り
- ・12月1日 介助犬のひろばin北河内2019
- ・12月14日 大東商工会議所モノづくりワークショップ



本年度の企画

- ・ IoTパズル企画
- ・ バルーンアート
- ・ エコキャップ



リサイクルアート企画内容

- ペットボトルのキャップでリサイクルアート作成。
- 小さい子供たちに向けた企画。

リサイクルアートのねらい

- 処分品で作品を作成
 - ➡人が生活していたら出るごみを再利用
- 環境保全
 - ➡地球温暖化への関心を高めるため
- 分別の習慣付け
 - ➡ごみを捨てる際、分別を癖づける
- 小さい子供たちに参加してもらいたい
 - ➡地域活性化



リサイクルアートの活動

- 商店街の振興組合事務所でプレゼンの案を提出。
- 近所のスーパーで台紙で必要なダンボールを頂いた。
- ペットボトルのキャップを約千個集めた。
- 商店街大学のキャラをキャップで作る。

残念ながら台風で中止の為、別の活動で行った

報告する事例

1. イベント企画



2. 介助犬のひろばホームページ作成

3. その他の地域活性化



2. 介助犬ひろばホームページ作成

<https://servicedogsquare.com/>

介助犬のひろば



介助犬のひろば

- 実行委員会の代表者の所属は地元大東市の川村義肢株式会社。
- 『商店街大学』で、代表者の「介助犬の使用者が元気になっていく姿を見て普及、啓発に携わるようになりました。みなさんもぜひ関わっていただいて動物のチカラを実感してほしいと思います」という呼びかけがきっかけで参加することになった。



地域ボランティアへの参加 マップ作成ボランティア

- ゼミでの川村義肢様からのプレゼン模様はJCOMで放映された。





今までの成果

(参考) 北河内ユニバーサルマップの取り組み



JR住道駅版、JR野村駅版、JR四条駅版



JR住道駅版マップ

「北河内ユニバーサルマップ」は平成28・29年度は大東市産業公団型委託事業、平成30年度は四條畷市地域福祉基金助成事業にて「介助犬のひろば実行委員会」が制作・配布。地域の大学生等に参加いただき、店舗に訪問し、段差の有無、スロープの有無、手話対応の可否など、バリアフリー化されている情報を収集しマップを作成。

駅名	施設名	バリアフリー情報
住道駅	住道駅前広場	平坦
	住道駅前バス停	平坦
	住道駅前公園	平坦
	住道駅前商店街	段差あり
野村駅	野村駅前広場	平坦
	野村駅前バス停	平坦
	野村駅前公園	平坦
	野村駅前商店街	段差あり
四条駅	四条駅前広場	平坦
	四条駅前バス停	平坦
	四条駅前公園	平坦
	四条駅前商店街	段差あり

各店舗ごとのバリアフリー情報

- ・大東市内の3駅周辺の350施設のバリアフリー調査を3年かけて実施
- ・掲載数は全国でもトップクラス(ベスト10以内?)
- ・大東市および四條畷市の助成金を活用
- ・ボランティアの参加人数は250名
- ・国土交通省ホームページでも紹介 (<http://www.mlit.go.jp/common/001278594.pdf>)



紙ベースでは情報量、展開力、発信力に限界

今年の事業内容

「日本一暮らしやすいまち」を構築するための3つの柱

- 1.野崎駅周辺施設の再調査
- 2.WEBサイト開設
- 3.介助犬のひろば開催



介助犬のひろばとは

目的

介助犬の役割を伝え、その使用者を始めとして障がいがある人も暮らしやすい地域をつくる。

そもそも介助犬って？

手や足の障がいのある方の日常生活の手助けをする特別な訓練を積んだ犬のこと。盲導犬が目の不自由な方の目となるように、介助犬は手や足の不自由な方の手足となり、生活の補助を行う。

暮らしやすい地域づくりの一環としてマップ作成

内容: 許可をいただいた店舗の掲載。

店舗に自動ドアやスロープがあるか等の記載。

目的: 店に障がい者の方が利用するという意識を持ってもらう。

障がい者の方やマップを見た方が店を利用してもらう。

→マップを通じてお互いに良い関係へ。



紙媒体をインターネット媒体へ

紙媒体→ネット媒体にすることで...

- ・紙を配布するより、多くの人にマップが行き渡る。
- ・見やすい。持ち運びがしやすい。
- ・障がいを持った方の他に色々な方にも使ってもらえる。

→紙のマップでは限界があった。
WEBサイトの可能性。

私たちが行う活動

昨年以前に先輩方が作成したユニバーサルマップを基に四条畷学園大学の学生と協力し、ホームページ作成する。

(参考) 北河内ユニバーサルマップの取り組み



4つのチームに別れて活動

ホームページ作成前に...

4～5人ほどでチーム編成し、イメージカラーやキャッチフレーズを考案してグループ別に発表し全体で確定させて方向性を決める。



ホームページ作成

講師の方の指導の下WordPressでホームページ作成に取り組む。

大東ビジネス創造センター(D-Biz)で6月から7月にかけて、水曜18時から行った。



イベント運営と作ったホームページの発表

- 12月1日(日)に大東アクティブスクエアで介助犬の広場というイベントを川村義肢株式会社様主催で実施。



イベント運営と作ったホームページの発表

- 様々な方が出し物を行った。



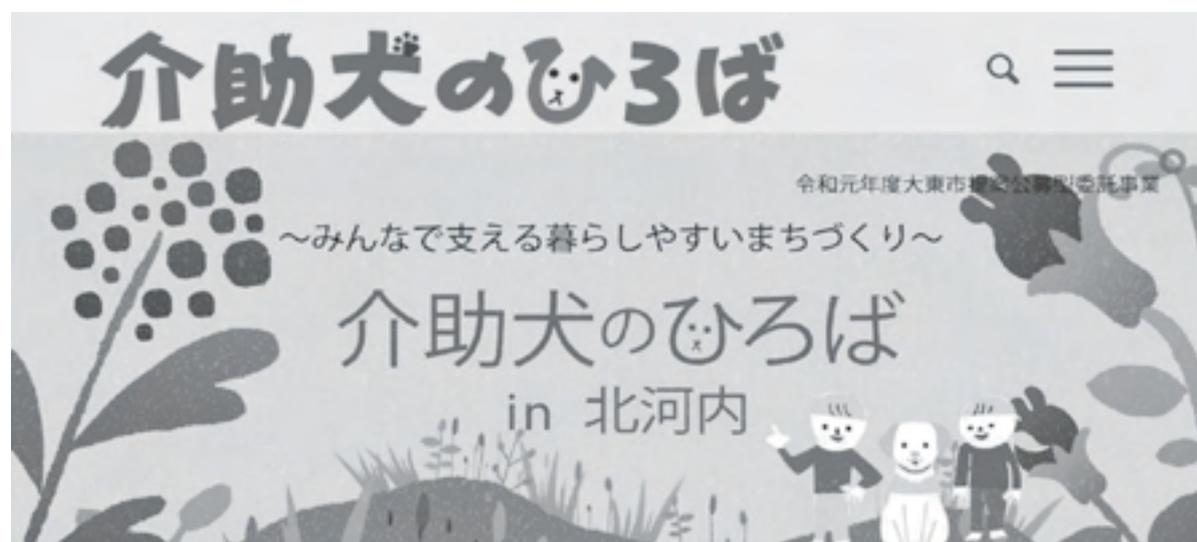
イベント運営と作ったホームページの発表

- 大東市長にも起こしいただいた。



イベント運営と作ったホームページの発表

- 介助犬のご利用者に向けて作ったホームページを発表。



報告する事例

1. イベント企画



2. 介助犬のひろばホームページ作成

3. その他の地域活性化



3. その他の地域活性化

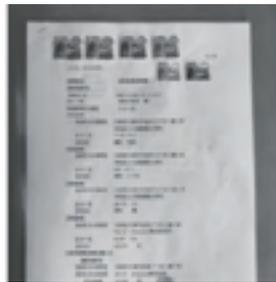
1. 地元企業との共同研究

大学の地域社会連携課・大東商工会議所

2. 地域ボランティア

大東青年会議所の地域活性化事業

3-1 クラウドファンディングでの商品開発



<https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/8084.html>

3-1 クラウドファンディングでの商品開発

クラウドファンディングとは？

「クラウドファンディング」

「群衆(Crowd)」と「資金調達(Funding)」という言葉を組み合わせた造語で、インターネットを通じて不特定多数の人に資金提供を呼びかけ、趣旨に賛同した人から資金を集める方法。



共同研究

- ①皮革小物製造業GLC Japan株式会社様
- ②流芳園様



共同研究

- 2019年度
- 皮革小物製造業GLC Japan株式会社様



クラウドファンディングの進め方

「マクアケ」

- ・マクアケに掲載する写真や動画撮影
- ・マクアケ投稿前に下書き作成

「プロジェクト開始後」

- ・支援者からの応援コメントに対する返信
- ・活動レポートの作成
- ・SNS 開設



プロジェクト結果！



3-2 大東青年会議所の地域活性化 竹フェスのイベント



企画内容

大東青年会議所(JC)の人たちと一緒に竹を伐採

竹にいろいろな穴をあける。

大東市で点灯式を行った。



企画の狙い

大東市は年配の方が多いので若者にも来てもらうこと
そして流行りの「インスタ映え」を狙った

このことから

大東市という街の素晴らしさをもっと知ってもらうため

実際の活動

竹に穴をあけるのは思っている以上に大変で力もいる。

点灯式までは竹の中に電気を入れない為完成品を見てもパツとしない。

そして、子供たちも私たちが思っている以上に来た為、順番で穴あけ作業を行った。

大変でしたが、みんなで作り上げた竹が点灯式の時に綺麗に光っていてすごく感動した。

参考WEBサイト

野崎参道商店街『商店街大学』

- <https://ravie.net/?p=3122>
- <https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/8260.html>
- <https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/8119.html>
- <https://twitter.com/nozadaigaku>

介助犬のひろば

- <https://servicedogsquare.com>
- <https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/news/7793.html>

学生発表③

活動テーマ	寝屋川の水辺を守る活動—大学と市民と行政の協働
活動場所	大阪府寝屋川市
連携先	寝屋川市役所、ねや川水辺クラブ、寝屋川ユースネット
活動主体	大阪電気通信大学 工学部環境科学科 資源工学研究室

1. 活動概要

本活動は寝屋川市の名前の由来である一級河川 寝屋川にまつわる市民と行政の協働に大学生として参画し、学生の力で活性化することを目指し取り組んだものです。まずは寝屋川ユースネットという市域の若者が連携するための枠組みを作りました。また、定例の活動として、以前から行政と市民の手で進めていたクリーンリバー寝屋川大作戦という河川の清掃イベントにおいて大学生が実行委員として参加し、企画運営にも携わり、用具の管理などを行うようになりました。また、地域の環境問題を実体験した私たちは卒業研究として、閉鎖系水域の水質改善のための検討を始めました。

2. 年間計画

5月 クリーンリバー寝屋川作戦・春への参加
6月～10月 大学内での予備検討
11月 クリーンリバー寝屋川作戦・秋への参加〈予定〉
12月～1月 寝屋川市内での実証試験〈予定〉
2月～3月 成果報告〈予定〉

3. 活動成果

私たちは寝屋川ユースネットという枠組みのなかで、寝屋川市役所の方々や市民団体であるねや川水辺クラブの方々、そして市域の教育機関（大学、高校）の学生と協働し、一級河川 寝屋川の水辺の保全や水資源の大切さを伝える活動を行ってきました。毎年2回行われるクリーンリバー寝屋川作戦では実行委員として参加し、河川清掃ボランティアとして参加するだけでなく、運営側として活動しました。また、TV東京系列の番組から寝屋川市役所に撮影協力依頼があり、地域の方々と協力して取り組みました。この活動では大学の近隣の池の外来植物および外来生物の駆除を行いました。実際に水を抜いた池の中に入り、湖底のヘドロ（汚泥）が環境を悪化させていることを知りました。そこで、卒業研究を始めるのにあたり、閉鎖性水域の浚渫（しゅんせつ）汚泥のオンサイト処理をテーマに研究を行っているため、その途中経過についても報告を行います。

4. 地域からの評価

寝屋川市では以前から市民と行政による水辺に関わる市民協働・協創が活発に行われてきました。例えば、親水公園の設置を市民主導で国交省に働きかけたうえ、“市民工事”と銘打った市民が工事の一部を担う整備事業が実施された実績があります。私たちの活動は寝屋川市の市民の想いを継承し、活性化する目的で行って来ました。普段は交流を持つことが少ない市役所の方や市民の方々と活動し、そのたびに「よく動いてくれる」とたいへん好評をいただいています。また、寝屋川市の市長（当時）に表敬訪問させていただいたこともよい経験になりました。

5. 参考 WEB サイト

https://www.osakac.ac.jp/project_now/envs/351
https://www.osakac.ac.jp/project_now/envs/361

6. 活動メンバー

工学部環境科学科 4年生
白岩規孝、手塚雅斗、谷口健太、小島拓人
工学部環境科学科 3年生
小堀湧登、白石壮臣、高垣皓平、松島英輝

7. 担当教員

工学部環境科学科 講師 田中孝徳、工学部環境科学科 教授 高岡大造

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	地域連携推進センター センター長	
氏 名	中田 亮生	
連絡先	電 話	072-824-1131
	メー ル	a-nakata@osakac.ac.jp

9. 活動の様子



寝屋川の水辺を守る活動 — 大学と市民と行政の協働

大阪電気通信大学 工学部 環境科学科

資源工学研究室

3回生: 小堀湧登, 白石壮臣, 高垣皓平, 松島英輝

4回生: 白岩規孝, 谷口健太, 小畠拓人, 手塚雅斗

(指導教員: 高岡大造, 田中孝徳)



寝屋川の歴史

大阪電通大の近くを流れる
寝屋川は、高度経済成長期に
水質が全国ワースト1

<理由>

急激な開発で水害にも悩まされ
治水を最優先とした整備

市のシンボルにふさわしく、市民協働による川の再生を
図ること目的とした組織「寝屋川水辺クラブ」が発足



寝屋川水辺クラブとは

寝屋川を中心とした市内水辺の再生をめざして、
平成13年に設立された市民主体の組織

市民が大阪府、寝屋川市と協働し河川再生活動に参加



工事前



工事後

寝屋川水辺クラブの課題

- 水辺クラブや清掃活動に参加する人の高齢化
- 地域住民の、川などの水辺環境についての関心の低下
- 若者が少なく、今後の活動の継続が困難
- 経験・技術の継承が出来ない

寝屋川水辺クラブの
幹事会の様子
(年配の方がほとんど)



寝屋川ユースネット

結成

組織が整備されたのは
先輩たちから

寝屋川市にある3つの大学、1つの
高校、市民団体Jrが連携して
活動している組織

数々の成果を上げた大人たちの思い
と技術を継承した

『若返り組織』を目指している



活動内容①: クリーンリバー

春と秋に行なわれるクリーンリバー寝屋川作戦に参加



活動内容：寝屋川の清掃活動
(草ぬき、ゴミ拾い etc)

実行委員として参加（用具の準備等）





先輩たちの活動を引き継いで
私達も実行委員として
活動しました

地域の年配の方とコミュニケーション
をとりながら作業しました。
大変でしたが、勉強になりました。



活動内容②: 寝屋川再生ワークショップ



- ゴミ拾いなどの対症療法だけではなく根本的な解決に向けての活動を計画
- 寝屋川市内の水路や山新池の整備計画



25 大阪 2017年09月16日

大阪 東部

WANTED! 肉食魚

寝屋川市の公園にある池で、北米原産の巨大肉食魚「アリゲーターガー」とみられる魚が捕獲された。生態系を乱す可能性がある。市民有志などでつくるグループが16日、試食を試みる。

捕獲されたのは、東市西區あさひの公園にある山新池（約4000平方メートル）。水辺環境の整備や水質浄化を

一歩を担っていたという。メンバーの一人で寝屋川大学工学部2年次助手兼教授（河川生態学）は、ペットとして飼われた魚が放流された形で繁殖した可能性があるとみる。

16日は、グループに所属する市民団体のメンバーや市職員、寝屋川大学の学生ら約30人が、池畔を巡って試食を試みる。

寝屋川 ぎょうアリゲーター

寝屋川再生ワークショップ
活動 2017年9月16日(土)



問題2
危険外来生物
アリゲーターガーの捕獲

↓
失敗



雨の降る中、市役所職員・市民・学生が協力して

問題1
竹林の整備

年配の方々に教
えてもらいながら、
取り組みました



そこで、

TV番組の協力のもと問題2 スイレンの除去、問題3 アリゲーターガーの捕獲・駆除
を行うことに！もちろん寝屋川ユースネットが全面協力することになりました。

寝屋川の貴重な自然の再生へ

TV番組の撮影後ですが、池の魚をくわえるカワセミの姿が確認されました！



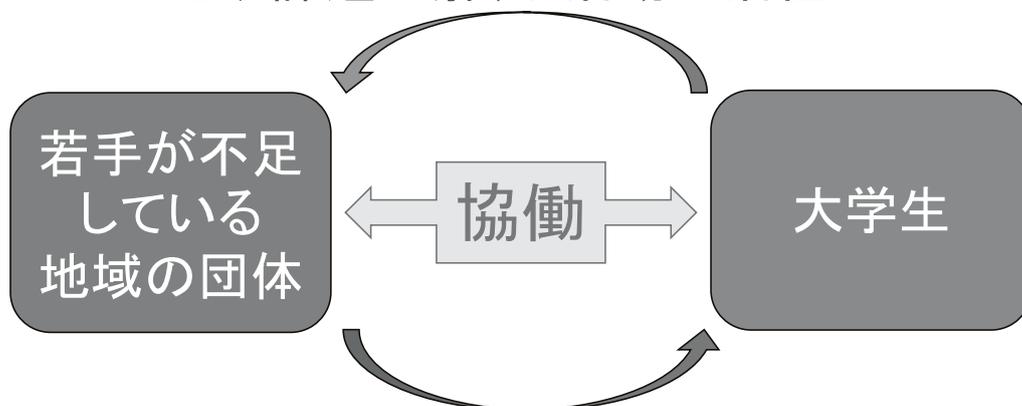
11月25日撮影@山新池

全体のまとめ ＜大阪電通大からの提案＞



4ステップの実学教育
4 Step Education for Practical Studies
こころの
Community
実践
Practical
活動
Activity
発展
Development
大阪電気通信大学
O.E.C.U. Osaka Electro-Communication University

地域課題の解決・活動の活性化



年配者との協働経験・社会人基礎力の獲得

→体験から社会の課題を発見し、研究に発展

学生発表④

活動テーマ	地域の特産物を用いた大学ブランド商品の企画・開発・販売
活動場所	寝屋川市
連携先	寝屋観光農園(寝屋川市)、ゆらみかん普及会(由良町)、八木酒造株式会社(奈良市)
活動主体	摂南大学 PBL プロジェクト

1. 活動概要

私たちは、「摂南大学といえば〇〇」と言われる商品を作るために、商品の企画・開発を行っています。一昨年は、他大学のブランド商品を調査し、これらの商品がアイデア勝負型・研究成果型・地域性重視型に分類できることを示しました。この分類に基づいて、商品企画案を作成し、大学のある寝屋川市のベンチャービジネスコンテストに応募するという活動を継続して行っています。

2. 年間計画

年始にメンバーを募り、4月から活動を行います。今年度は、希望に応じて企画・開発・販売の3グループに分かれました。企画グループは、10月までに企画案をまとめ、ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストに応募します。開発グループは、商品の開発に取り組み、販売グループは、実際の販売を目指して販売店の開拓などを行います。中間発表会や最終発表会があり、そこで活動の報告を行います。

3. 活動成果

地域の特産物を用いた企画商品の中には、寝屋川市でとれたサツマイモと大学が協定を結んでいる和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒があり、コンテストで高い評価を頂いたことから、酒造会社にご協力いただき、商品開発を行いました。いくつかの試作品を経て、今年の9月から「初瀬姫」という商品名のお酒として販売できる段階まで来ています。その他の企画商品には、シソとみかんの入浴剤などがあり、現在商品開発の基礎検討を行っています。

4. 地域からの評価

- * 寝屋川市が主催するコンテストにおいて以下の賞を受賞した。
- * ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2018 協働部門賞・グランプリ受賞
- * ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2018 商業部門賞
- * ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2018 農業部門賞

5. 参考WEBサイト

<https://www.setsunan.ac.jp/sayakeki/pbl/>

6. 活動メンバー

理工学部	3年	小田和哉、鬼塚俊成、廣重恵、藤本明日望、村島康平、柿木優佑、水野靖大
理工学部	2年	永田絢加、藤本英仁
外国語学部	2年	薬師円香
経済学部	2年	石破真歩

7. 担当教員

理工学部 講師 居場嘉教、准教授 木村朋紀、准教授 船越英資

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	摂南大学	
所属先・職名	理工学部・講師	
氏 名	居場 嘉教	
連絡先	電 話	072-839-8227
	メー ル	iba@lif.setsunan.ac.jp

9. 活動の様子



〈PBLプロジェクト〉 地域の特産物を用いた大学ブランド商品の 企画・開発・販売

柿木優佑（理工）

水野靖大（理工）

廣重恵（理工）

○永田絢加（理工）

藤本明日望（理工）

○藤本英仁（理工）

村島康平（理工）

薬師円香（外国語）

小田和哉（理工）

○石破真歩（経済）

鬼塚俊成（理工）

本日の内容

1. 摂南大学とは
2. PBLプロジェクトとは
3. プロジェクトの目的
4. 活動内容
 - 4-1 シソとみかんの入浴剤
 - 4-2 サツマイモとみかんピールのお酒
5. 最後に

1. 摂南大学とは



Smart and Human
摂南大学 

2. PBLプロジェクトとは

2010年度からスタートした体験型学習。

対象：全学科の2、3年生

単位認定：あり

今年度：13グループが各グループ

10～20人で活動しています。



3. プロジェクトの目的

- ・「摂南大学といえば〇〇」と言われる商品を作る
- ・地域の貢献にも繋げる



3. プロジェクトの目的

地域性



おっきりこみ
郷土料理を全国へ!



まなろん
伝統野菜「大和まな」の普及



カレーに乗せてはいけない
福神漬け

研究成果を活用



ケルセチン透明石鹸
機能性食品研究の第一人者



LEDランタン
青色発光ダイオード
発見を記念して作成



研Q室のヨーグルト
研究室発見の乳酸菌使用



アピオ酢in青森りんご
アピオス (マメ科植物)
加工法に関する特許を取得し商品化



近大マグロ

有効利用



みかんうどん
処分されていたみかんの皮を利用



ジビエカレー
獣害対策で捕獲したシカの肉を有効利用

アイデア勝負



日経アクセスランキング1位
ほほほ ほにゅうびん
構造で計量ミスを防ぐ



リンパ快促
構造で血流を促す



ベジタブルカレー
ユニーク商品
ムスリム留学生に配慮



転倒防止靴下
構造で転倒防止



iP-TEC®

日経アクセスランキング
2位: SW1H手帳
3位: 若者が手紙を書きたくなくなる便箋
5位: 就活パンフス

3. プロジェクトの目的



摂南大学と和歌山県由良町は
「大学のふるさと」協定を
結んでいます

寝屋川市と和歌山県由良町に貢献できる商品に！



寝屋川市のシソ、サツマイモ×由良町のみかん

4. 活動内容

「シソとみかんの
入浴剤」



「サツマイモと
みかんピールのお酒」



「シソとみかんの入浴剤」



4-1 シソとみかんの入浴剤



企画

「現在の仕事や職業生活に関する事で強い不安、悩み、
ストレスになっていると感じる事柄がある労働者」

平成27年調査
55.7%

+3.8%

平成28年調査
59.5%

開発

厚生労働省「労働安全衛生調査」

“疲れを癒す”ことに役立つことはできないかと考え
お風呂タイムに着目した。

4-1 シソとみかんの入浴剤



企画

開発

シソ

◎成分：ペリラルデヒド

- ・抗炎症作用
- ・血行促進作用
- ・抗アレルギー作用
- ・リラックス効果

ミカン

◎成分：リモネン

- ・抗炎症作用
- ・血行促進作用
- ・保湿効果
- ・リラックス効果

4-1 シソとみかんの入浴剤



企画

開発

◎シソとミカンの入浴剤

- ・特徴：シソとミカンの効能を活かした入浴剤
- ・ターゲット層：ビジネスパーソンや子供のいる家庭
- ・形状：バスボム

- ・主な材料は重曹やクエン酸
- ・固形で発泡性がある



ハーブやラメ入り、カラフルでデザイン性のあるものもある。

4-1 シソとみかんの入浴剤



企画

購入者

- ・手軽に疲れを癒すことができる
- ・プレゼントにもできる
- ・シソの入浴剤は珍しい

開発

ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト
農業部門賞受賞

- ・ノベルティグッズにできる

企業

- ・食品と比較して長期保存が可能

4-2 シソとみかんの入浴剤



企画

課題

PL法（製造物責任法）による制限

→連携先を探し委託することを考えました。

→委託先を探したが受け入れてくれる企業が見つかりませんでした。（資金の不足が原因）

開発

対応

連携先が見つからなかったため、今年度はPL法の制限がかかる商品化ではなく、基礎段階として試作品の作製を行うことにしました。

4-2 シソとみかんの入浴剤



企画

開発



蒸留器にシソを投入



抽出中



回収した精油

	参考値	寝屋川市のシソ (1回目)	寝屋川市のシソ (2回目)	寝屋川市のシソ (3回目)
シソの量	3 kg	3 kg	3 kg	3 kg
抽出量	11 mL	1 mL	2 mL	3 mL

4-2 シソとみかんの入浴剤



企画

開発



破碎前のみかんの皮



粉碎中



蒸留器に投入中



抽出中

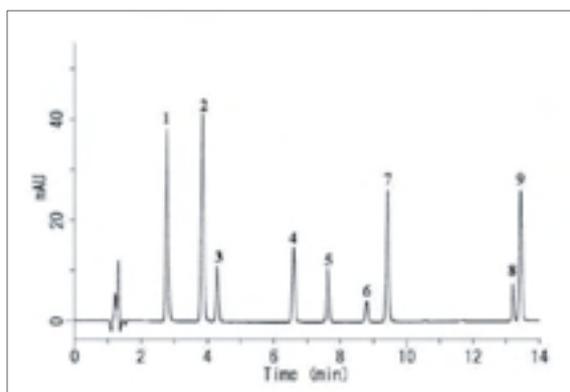
	参考値	由良町のみかんの皮
みかんの皮の量	1.96 kg	3 kg
抽出量	51 mL	20 mL

4-2 シソとみかんの入浴剤

企画

- 精油成分の配合比を考える予定です。
- 試作品を作製する予定です。

開発



「サツマイモとみかんピールのお酒」



4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

開発

販売

摂南大学 芋焼酎仕立てのみかん酒

寝屋川市産サツマイモ × 由良町産ミカン 商品のイメージ



試飲会を開いたり、寝屋川市を訪れた人にお土産として提供



寝屋川市をもっと知ってもらい、地域活性化に繋げる！！

本格芋焼酎をベースに、芋の香りや甘みを残しつつ、さらに飲みやすくするために、みかん果汁を入れることを考えました。

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

開発

販売



ワガヤネヤガワ・ベンチャー
ビジネスコンテスト2017
に応募しました

一次審査を突破
したもの…
本戦出場ならず

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

既存の焼酎に
みかんの皮の粉末
みかんピール（砂糖煮）
オレンジエッセンス（香料）
などを配合しました



開発

販売

→しかし、芋とみかんの香りが合わず行き詰まり…

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

同時にお酒を作って頂ける
酒造さんを探していたところ…

開発

→新聞で記事を発見

販売

→奈良県の(株)八木酒造さんが
協力してくださることに



4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

八木酒造さんに試作品の相談をしたところ

開発

元：焼酎に皮の乾燥粉末を加える

↓

新：もろみにみかんの皮を加えた後蒸留する

販売

芋とみかんの香りのバランスが良くなった



4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

寝屋観光農園さんにて
芋掘りを行いました

開発

みかんの皮は
ゆらみかん普及会さんから

販売

購入しました



4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

開発

販売



サツマイモをカットしている様子です



みかんを投入した様子です

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

ワガヤネヤガワ・ベンチャー
ビジネスコンテスト2018
に応募

開発

グランプリを受賞

販売



4-2 サツマイモとみかんピールのお酒

企画

寝屋川市のサツマイモ
×
由良町のみかん



開発

みかんの香りがする
芋焼酎風味



約700本 300mL

価格：900円＋税

販売

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画



開発

販売

試飲会の際の記念写真

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

学内では販売できない

→酒屋さんの協力が必要

開発

寝屋川市産業振興センターさんに
相談したところ…

販売

→寝屋川市の酒屋さんを2軒紹介
して頂きました



4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画



開発



販売

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

開発

販売



105本 完売！

4-2 サツマイモとみかんピールのお酒



企画

開発

販売

まとめ

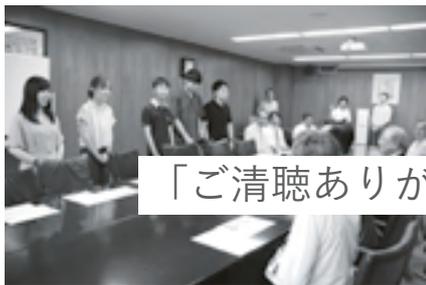


【今後】店舗で販売しつつ、イベントで出店

5. 最後に

摂南大学、寝屋川市、
由良町のPR

地域の活性化



「ご清聴ありがとうございました」



学生発表⑤

活動テーマ	「食」を通じた地域活性化に向けた取り組み～大阪池田チキチキ探検隊～
活動場所	大阪府池田市
連携先	産官学連携「大阪池田チキチキ探検隊実行委員会」 池田市にぎわい戦略室地域活性課、池田市企業・飲食店舗など
活動主体	大阪成蹊大学マネジメント学部 東出ゼミ生 4名

1. 活動概要

大阪府池田市では‘食’の資源を活かした地域活性化に向けた産官学連携事業「大阪池田チキチキ探検隊」の活動が進められている。とりわけ、池田市発祥であるインスタントラーメンを中心として、「産」は日清食品HDや飲食店舗など、「官」は池田市役所地域活性課、「学」は本学をはじめとする大学が連携している。

本学マネジメント学部食ビジネスコース東出ゼミ4名は、2018年度から2019年度にかけて産官学連携において地域活性を目指す企画・提案、実践を通して卒業研究に取り組んでいる。2018年度は日清食品‘ひよこちゃん生誕60周年’、2019年度は‘池田市制80周年’の節目にかかり、さらなる地域活性に向けての産官学連携が進められており、実行委員会の学生委員として積極的に活動を行っている。

2. 年間計画

【大阪池田チキチキ探検隊実行委員のメンバーとしての活動】

①チキチキフェスティバル子ども池—1グランプリ

インスタントラーメン発明60周年記念として、池田市内に在住在学の小中学生によるチキンラーメンの創作料理を競うフェスティバルが開催された。事前学習において子どもたちと一緒に料理の作り方や包丁の扱いなど注意しながら試作し、当日は下ごしらえから販売のアシストを行うとともに、ステージの進行も担当しフェスティバルを盛り上げた。

【大阪池田チキチキ探検隊における大阪成蹊大学独自の活動】

①チキチキ加盟店店舗取材

池田市内のチキンラーメンを使った創作料理を提供する飲食店に取材に行き、その内容をまとめ池田市広報誌「たべあるきMap」で紹介している。また、池田市HP「大阪池田チキチキ探検隊」にアップし、‘食’の情報発信を行っている。

②チキンラーメン創作料理動画撮影

池田市の‘食’を発信する企画として、チキンラーメン創作料理を家庭でも気軽に作っていたできるように、学生による料理動画を作成し池田市HPなどでSNS発信を行った。

作成した料理動画が池田市HPにて公開されると人気が高まったことから、第二弾として追加撮影を行い、現在10メニューの動画をアップしている。

③チキチキ探検隊アンテナショップ企画提案

池田市観光案内所が2018年にリニューアルオープンし、チキチキ探検隊アンテナショップとして新たにイートインコーナーが増設された。私たちゼミ生も携わることになり、池田市の「食」を発信するメニューの企画・提案を行い、実際にメニューとして販売された。販売促進の活動とPDCAによるメニューの見直しを行い、売り上げの増加とともに池田市の「食」の魅力を発信した。

3. 活動成果

- 学生取材によるチキンラーメン創作料理の取材内容を掲載した、池田市広報誌「たべあるき Map」(2019年8月)が発行された。池田市観光案内所や観光名所等で配布されている。
 - 学生が作成した料理動画は池田市 HP「うまい de 池田」にてアップされ、池田市の‘食’を発信している。SNS投稿時に#をつけることによって、関心度の高いユーザーの閲覧が期待できる。
 - 池田市観光案内所大阪池田チキチキアンテナショップのイトインコーナーにおける、ドリンクメニューの企画・提案を行い、2つのメニューが販売されることになった。1品は池田市の銘酒に着目した「呉春酒粕の甘酒」、もう1品はコーンスープに砕いたチキンラーメンをトッピングした「コーンチキスープ」の販売を行った。
- 以上の活動により、‘食’を通じた地域活性に貢献できる成果となった。

4. 地域からの評価

「大阪池田チキチキ探検隊実行委員会」が池田市役所にて定期的実施されている。本学の学生も出席し、地域活性に向けた企画・提案を積極的に行っている。

料理動画作成については、地域から好評を得たことで反響があり、学生2名がJ:com北摂の生放送に出演し、活動が紹介された。

学生の活動が認められ、2018年度に続き2019年度においても池田市長より「感謝状」を授与された。表彰式では、池田市役所にて活動報告ののち、質疑応答による今後の池田市への課題について議論も行われた。

5. 参考 WEB サイト

学生の活動成果が掲載されている WEB サイト

- 池田市 HP 大阪池田チキチキ探検隊 チキンラーメン創作料理の取材内容を掲載
<http://www.chiki-chiki.com/>
- 池田市 HP うまい de 池田 学生による料理動画の撮影レシピ掲載
<https://www.ikedashi-kanko.jp/media/tag/chikichiki>

6. 活動メンバー

マネジメント学部4年(東出ゼミ4名)
伏見雅也、大城諒夏、竹内隼、山元かれん

7. 担当教員

大阪成蹊大学マネジメント学部 教授 東出加奈子

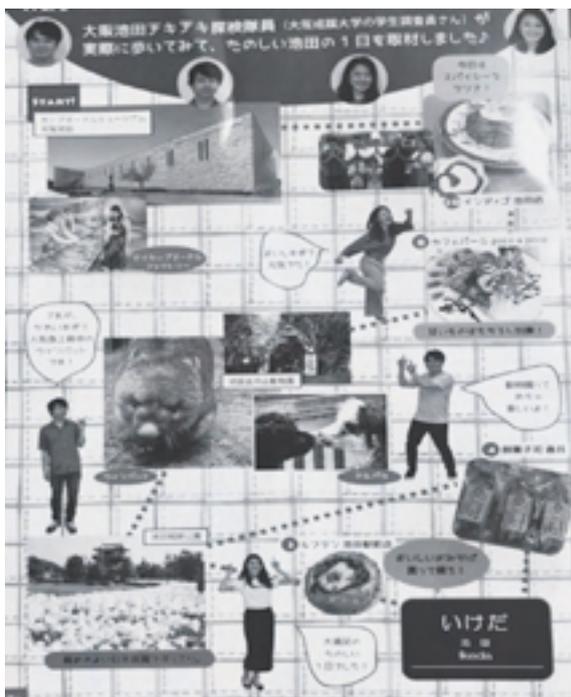
8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪成蹊大学	
所属先・職名		
氏 名		
連絡先	電 話	
	メー ル	

9. 活動の様子



資料



池田市広報誌「たべあるき Map」



1日で巡る池田市

「食」を通じた地域活性化に向けた取り組み
～大阪池田チキチキ探検隊～



大阪成蹊大学 マネジメント学部
食ビジネスコース 東出ゼミ

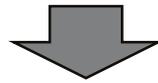
伏見雅也 大城諒夏
竹内隼 山元かれん



大阪成蹊大学
OSAKA SEIKI UNIVERSITY

はじめに

内閣府
地域の自立的な活性化を促すための取り組みを
意欲的に進めていく



地域活性化に向けた取り組みが全国に広がる



大阪府池田市

2014年 地域の資源を活かす「大阪池田チキチキ探検隊」発足

2014年
重点政策として
打ち出す



池田市について



阪急電車宝塚線 急行
大阪梅田駅から池田駅20分、石橋阪大前17分

北には五月山、南には大阪国際空港

人口 103,613人 (2019年12月31日現在)

カップヌードルミュージアム大阪池田

五月山動物園

ダイハツ工業株式会社: **インスタントラーメン**
発祥の地

小林一三記念館

逸翁美術館

など



池田市と大阪成蹊大学の産官学連携

大阪成蹊大学 マネジメント学部

食ビジネスコース 東出ゼミ

卒論研究テーマ

「食」を通じた
地域活性化について



2018年

インスタントラーメン発明60周年

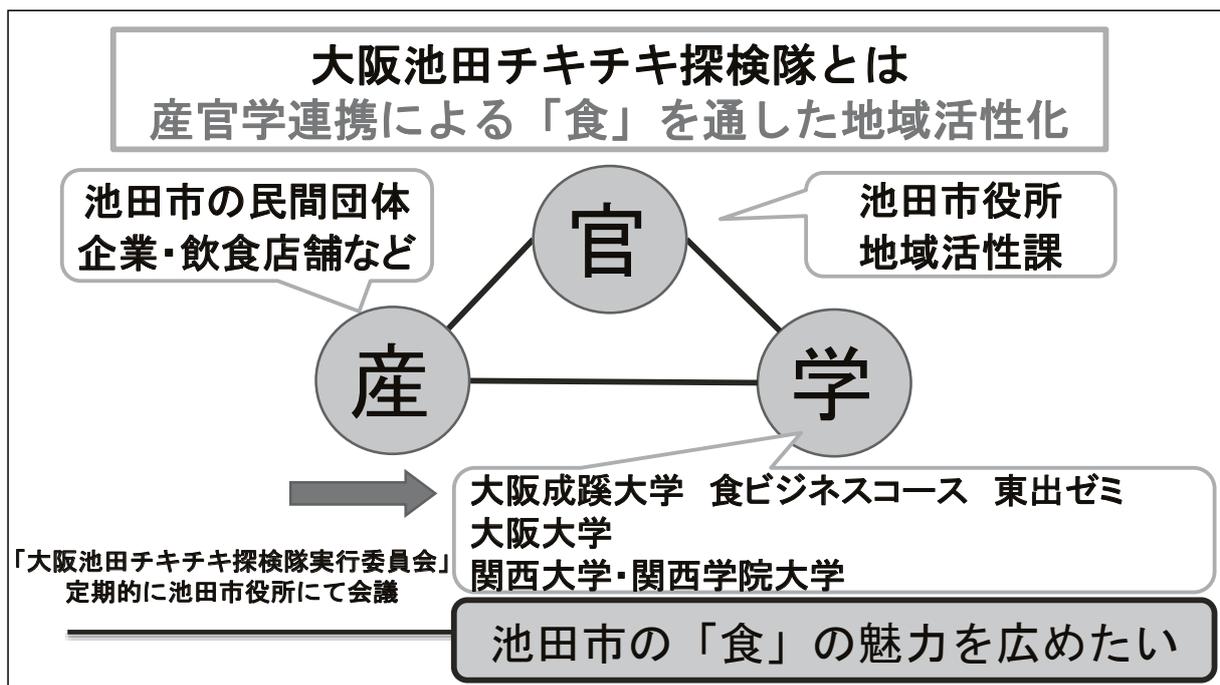
2019年

池田市制施行80周年



大阪池田チキチキ探検隊発足より

- ・ 1期生 2014年度～2015年度の活動
- ・ 2期生 2016年度～2017年度の活動
- ・ 3期生 2018年度～2019年度の活動



-  **活動内容**  **チキチキ探検隊スタッフとしての活動**
- 1 チキチキフェスティバル子ども池-1グランプリ (2018年)
- 大阪成蹊大学独自の活動**
- 2 池田市観光案内所チキチキ探検隊アンテナショップ企画提案 (2018年～2019年)
 - 3 チキチキ探検隊加盟店との連携 (2018年～2019年)
 - 4 チキンラーメン創作料理動画作成 (2018年～2019年)
-  大阪成蹊大学
OSAKA SEIKEI UNIVERSITY

1.チキチキフェスティバル子ども池-1グランプリ



日時：2018年8月25日（土）14:00～19:00

場所：池田駅前公園

60周年記念日

主催：大阪府池田市役所

共催：大阪池田チキチキ探検隊実行委員会

一般社団法人 池田青年会議所

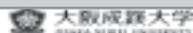
うまい池田PR実行委員会

協力：池田市商工業青年会

大阪成蹊大学



池田市内に在住在学の小中学生が「チキンラーメン」を使った新メニューを考え10チームでグランプリを競う



1.チキチキフェスティバル子ども池-1グランプリ

2018年7月16日



2018年7月23日



7月16日勉強会&結成式
メンバー初顔合わせ
メニュー考案

7月23日料理試作会
試作・レシピ作り

2018年8月5日



8月5日調理実習
試食・ネーミング考案

2018年8月18日



8月18日スタッフ会議
オペレーション確認

火や包丁を扱うので子どもたちに気を使った

8月25日当日盛り上げ
子どもたちをアシスト

1.チキチキフェスティバル子ども池ー1グランプリ



朝早くから下ごしらえ



ビンゴ大会の進行



子どもたちの販売アシスト

7月16日 勉強会&結成式
メンバー初顔合わせ
メニュー考案

7月23日 料理試作会
試作・レシピ作り

8月5日 調理実習
試食・ネーミング考案

8月18日 スタッフ会議
オペレーション確認

8月25日 当日盛り上げ
子どもたちをアシスト

プレスリリースによる取材および掲載

イベント取材および掲載

朝日新聞	1回掲載 (8月26日)
毎日新聞	3回掲載 (8月22日、8月26日、8月26日)
産経新聞	2回掲載 (7月28日、8月10日)
情報誌	リビング北摂、クレハプラス、TOKK、KansaiWalker
TV放映	朝日放送 (8月25日旅サラダ)、J:COM TV

ファミリー層や学校関係者
約6,000人の来場者で賑わう

子どもをメインにしたフェスタが注目され
マスコミに多く取り上げられ
池田市内外に広く発信



カップヌードルミュージアム大阪池田

1999年11月21日 開館

累計来館者数900万人達成までの歩み

年月	来館累計
2006年 7月	100万人
2008年 9月	200万人
2010年 8月	300万人
2012年 6月	400万人
2013年12月	500万人
2015年 6月	600万人
2016年 9月	700万人
2018年 1月	800万人
2019年 3月	900万人



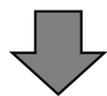
2. 観光案内所チキチキ探検隊アンテナショップ企画・提案

池田市観光案内所 

2018年6月28日リニューアルオープン

名称変更

「大阪池田チキチキ探検隊
チキチキ探検隊アンテナショップ」
イートインコーナー増設
チキチキメニュー販売開始



- ・池カラ・池チキコロコロ
- ・プレミアムチキンラーメン
- ・チキボナーラ
- ・チキチキソフト

企画提案

リニューアルオープン後の分析

2. 観光案内所チキチキ探検隊アンテナショップ企画・提案

池田市の「食」の資源
インスタントラーメン



呉春



「食」を通じた地域活性化において
「呉春」を取り入れる初の試み

酒粕使用メニュー販売の了承を得るため
学生が「呉春」の酒蔵を訪問し直接交渉

交渉にてご了承いただく！



池田市「食」の資源を
リサーチ

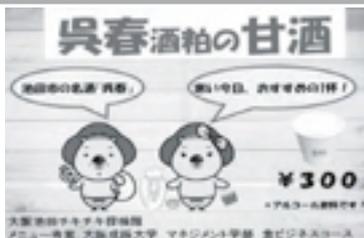
池田の銘酒『呉春』に着目

甘酒 試作 試飲会
砂糖の分量を変え何度も試作

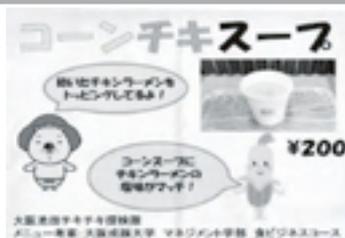
ようやく完成

大人向けとファミリー向け
ドリンクメニューの販売

2. 観光案内所チキチキ探検隊アンテナショップ企画・提案



2019年2月～8月 期間限定で販売



2019年6月～8月 冷たい甘酒販売



池田市「食」の資源を
リサーチ

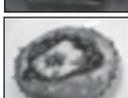
池田の銘酒『呉春』に着目

甘酒 試作 試飲会
砂糖の分量を変え何度も試作

ようやく完成

大人向けとファミリー向け
ドリンクメニューの販売

3.チキチキ加盟店との連携について



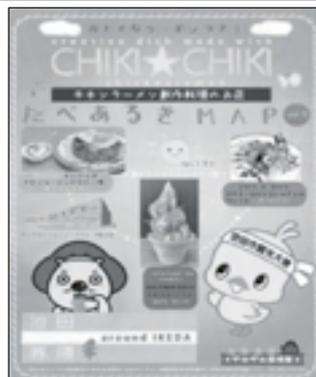
池田市内の飲食店
チキンラーメンを使った
創作料理メニュー提供

ゼミ生が店舗取材
メニューの写真撮影、
試食によるお薦めポイント

発信
「大阪池田チキチキ探検隊
HP」掲載
「たべあるきMAP」掲載



3.チキチキ加盟店との連携について



配布・設置場所

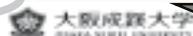
- ・池田市役所
- ・チキチキ加盟店
- ・カップヌードルミュージアム大阪池田
- ・阪急池田駅ゲストインフォメーション
- ・観光案内所チキチキ探検隊アンテナショップ

飲食店と連携し、
チキンラーメンを使った
創作料理を広めた

池田市内の飲食店
チキンラーメンを使った
創作料理メニュー提供

ゼミ生が店舗取材
メニューの写真撮影、
試食によるお薦めポイント

発信
「大阪池田チキチキ探検隊
HP」掲載
「たべあるきMAP」掲載



4.チキンラーメン創作料理動画作成



SNSで池田市の「食」を広める

→私たちゼミ生が料理を作るシーンを「動画」で発信へ

- ・ 見る人が作って食べたいと思えるもの
- ・ 家庭で簡単に作ることができるもの
- ・ 手軽に購入できる材料を使用したもの

4.チキンラーメン創作料理動画作成



作りたい!が見つかる
レシピ動画メディア



料理動画サイト事例を参考に

- ・ 1分～1分30秒
- ・ 手元のみを撮影
- ・ 材料の分量を表示
- ・ テロップを有効的に入れる
- ・ BGM

料理動画サイト事例リサーチ

たべあるきMAP加盟店より
メニュー候補

店舗にレシピ・作り方取材

料理練習・食材購入

料理動画撮影・編集

店舗に動画の了承いただく

HPにアップ 動画発信

4.チキンラーメン創作料理動画撮影

第一弾

2018年11月～12月 5メニュー撮影
→2019年2月～ SNS発信



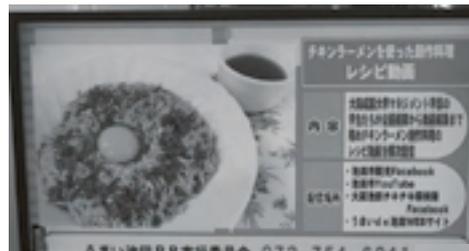
第二弾

2019年7月 5メニュー追加撮影
→2019年9月～ SNS発信



大阪成蹊大学
OSAKA SEISEI UNIVERSITY

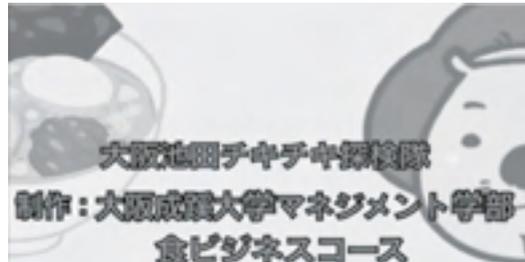
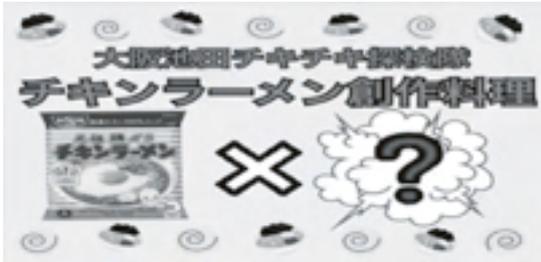
2019年2月 J:com北摂 生放送出演で動画アピール



大阪成蹊大学
OSAKA SEISEI UNIVERSITY

チキンラーメン創作料理動画 発信中

池田市WEBサイト うまいdeいけだ
池田市のYouTubeチャンネル



今後も閲覧数が伸びることを
期待したい



池田市長より表彰 (2018年度・2019年度)

2年連続表彰



表彰式

池田市長より表彰状



活動報告



まとめ



- 1 チキチキフェスティバルこども池-1グランプリ
- 2 池田市観光案内所チキチキ探検隊アンテナショップ
- 3 チキチキ探検隊加盟店の店舗取材
- 4 チキンラーメン創作料理動画撮影



私たちの2年間にわたる活動ならびに企画・提案により
池田市の「食」を通じた地域活性化に貢献



ご清聴ありがとうございました

学生発表⑥

活動テーマ	東日本大震災の被災地における子ども支援活動
活動場所	福島県南相馬市
連携先	南相馬市役所、みなみそうま復興大学、南相馬市教育委員会、南相馬市内小中学校、NPO 法人南相馬こどものつばさ、京都大学、東京都内の約30大学など多数。
活動主体	NPO 法人日本教育再興連盟（研究主体としては大阪大学）

1. 活動概要

本活動では東日本大震災と福島第一原発事故によって多大な影響を受けた福島県南相馬市において、多角的な子ども支援を行っている。特に南相馬市には大学がないこと、福島第一原発事故の影響により観光客の激減や失業や休業を余儀なくされた大人が多く住んでいたことから、子どもたちにとってのロールモデルとなる大人と市内で出会うことが難しくなっていた。そうした状況に対して、発表者が中心となって運営していたNPO 法人日本教育再興連盟では2014年よりキャリア教育をテーマにした支援活動を展開している。また2017年からは南相馬市復興企画部より研究助成金を発表者の所属である大阪大学に配分いただき、エビデンスに基づいた活動の展開を試みている。具体的には、学校現場への大学生の参与であったり、地域社会と企業のつながりを作るためのワークショップなどを開催した。

2. 年間計画

震災以降、状況に応じた活動を行っているため年度によってスケジュールは異なっている。2019年度に限れば、4月～5月にボランティアとして活動してくれる学生の募集（関東・関西）、6～7月に研修、8月～9月に支援活動、10月に振り返り、11月～1月で支援活動の準備や実施、2月～3月で振り返り及びニーズに応じて報告書の執筆等を行う。

3. 活動成果

活動をはじめて5年になるが、その間子どもたちへの直接支援によって得られた成果は小さくないと考えている。特に毎年学校現場で実施しているボランティア活動では学校と学生の間で協働して授業を作ったり、業務補助を通して学生が学校現場のことを知ったりする機会にもなっているなど、被災地だけでなく、参加する学生にとっての学びという成果も多く得られている。またこうした取り組みをもとに大阪大学を中心とした共同研究も実施し、各種学会発表や論文の執筆なども行っている。メディアに取り上げられたり、賞を授与されたりすることもあり、様々な機関から高い評価を受けていると自負している。その他、財団や企業から金銭的援助を受けることもできており、学生の自己負担をほとんど無くすことも実現した。

4. 地域からの評価

連携している地域からは今後も活動を継続してほしいという声であったり、現地NPOや教育委員会から感謝状を贈呈されたりしている。また南相馬市復興企画部からは一部の資金負担を頂いたり、研究助成金を頂いたりもしている。

5. 参考 WEB サイト

<http://kyouikusaikou.jp/tsubomiproject/>
https://www.city.minamisoma.lg.jp/material/files/group/7/saitaku_r1.pdf

6. 活動メンバー

伊藤駿（人間科学研究科）
中丸和（京都大学、2020年度より大阪大学大学院進学予定）

7. 担当教員

なし（伊藤が特別研究員籍を有している）

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪大学	
所属先・職名	大学院人間科学研究科・博士後期課程3年	
氏 名	伊藤 駿	
連絡先	電 話	090-1849-8488
	メー ル	ito@hbg.ac.jp

東日本大震災の被災地における 子ども支援活動

大阪大学 
NPO法人日本教育再興連盟 
1

NPO法人日本教育再興連盟（ROJE）

「ボトムアップの教育改革」「大学生×教育のプラットフォーム実現」をビジョン・ミッションとし活動している教育NPO。

震災復興支援活動や防災教育の普及活動、教員向けWebサイトの運営など様々な活動をしています。

詳しくはこちらから弊団体
ホームページをご覧ください。



<http://kyouikusaikou.jp/>

2



福島県南相馬市における 子ども支援活動



課題

◎福島県南相馬市

・東日本大震災と福島第一原発事故によって多大な影響を受けた。

- ・大学がない。
- ・観光客激減、失業や休業を余儀なくされた大人が住んでいた。

子どもたちがロールモデルとしての大人に出会うことが困難な状況に。

活動内容

◎2014年～

「キャリア教育」をテーマにした支援活動の実施。

・東京スタディーツアー

→企業と連携して社会科見学などを実施する。



活動内容

◎2017年

大阪大学を中心にエビデンスに基づいた活動の展開。



◎2017年度実施調査（南相馬市における児童生徒のキャリア意識の実態把握と改善に向けた方策考察）

- ・小中学生を対象とした訪問調査(9月、3月)及び質問紙調査(12月)
- ・上記調査活動で得られたデータを元に、目的達成に向けた分析を行った。

南相馬市の児童生徒は、将来に対する展望が具体的でない割合が高い。自分自身の興味等に応じて職業について調査、体験する機会が少ない。家庭内において不安なことについて話す割合が高く、明るい将来が描きにくくなっている。

活動内容

◎2017年

大阪大学を中心にエビデンスに基づいた活動の展開。

- ・ 南相馬市内でのキャリア教育イベント



7

活動内容

◎2018年

大阪大学を中心にエビデンスに基づいた活動の展開。



◎2018年度実施調査（復興大学を通じた学生の学びに関する研究）

- ・（大学生の経験調査）これまで復興大学を利用した学生や研究を実施した団体へどのような学びや発見があったのか、インタビュー、質問紙により調査を行う。
- ・（現地における効果調査）復興大学の運営・協力・利用している現地の方々に聞き取り調査を行い、学生との関わりが現地にどのような効果を生み出しているのか考察する。

- ・ 支援団体間の連携の必要である。
- ・ 大学という共通軸があるため、連携可能性がある一方で、継続的な支援の難しさがある。

8

活動内容

◎2018年

大阪大学を中心にエビデンスに基づいた活動の展開。

・南相馬市内の子どものニーズ調査とそれに基づく支援団体間の連携を模索する調査・パイロット事業の実施を予定。

9

活動内容

◎2019年

大阪大学を中心にエビデンスに基づいた活動の展開。



◎2019年度実施調査（多機関連携による南相馬市の子ども支援体制の構築（PHASE1））

①学校ボランティアとして大学生を小中学校に派遣し、子ども達との交流機会の創出、また学校外でのワークショップを実施することによって学校という枠組みにとらわれない子ども同士の関係性の構築を図る。

②生涯学習センター等を活用した子ども達と大学生の交流のため、学習支援活動やワークショップを実施し、各団体との連携方策や、複数大学と協力しての実施について可能性を模索する。

10

活動内容

◎2019年

大阪大学を中心にエビデンスに基づいた活動の展開。

- ・ 南相馬市内での学習支援活動



11

年間計画

4～5月	ボランティアをする学生の募集 (関東・関西)
6～7月	研修
8～9月	支援活動実施
10月	振り返り
11月～1月	支援活動の準備や実施
2月～3月	振り返り及び報告書の執筆

12

成 果

- ・ 学生の学び
…学生と学校協働による授業作成など学生が学校現場を知る機会に。
- ・ 研究成果
…取り組みに関して共同研究を行い、各種学会発表や論文執筆を行っている。
- ・ メディア掲載・受賞実績
- ・ 財団や企業からの金銭的援助
→学生の自己負担をほとんどなくすことを実現。

13

成 果

◎南相馬市からの評価

- ・ 活動継続を要望する声
- ・ 現地NPOや教育委員会から感謝状贈呈
- ・ 南相馬復興企画部からは一部資金補助や研究助成金の支給

14

連携先

- ◎南相馬市役所
- ◎みなみそうま復興大学
- ◎南相馬市教育委員会
- ◎南相馬市内小中学校
- ◎NPO法人南相馬こどものつばさ
- ◎京都大学
- ◎東京都内の約30大学など多数。

15

ご静聴ありがとうございました



16

学生発表⑦

活動テーマ	大学理学療法学科学生が関わる地域連携事業「地元自治会と大学理学療法学科との連携による健康寿命延伸を目的とした地域在住高齢者への運動指導」
活動場所	大阪府摂津市
連携先	野村ステイツ千里丘を含む味舌校区連合自治会
活動主体	大阪人間科学大学人間科学部理学療法学科3年生 奥研究室

1. 活動概要

- 2018年度の大阪人間科学大学公開講座「健康寿命を伸ばそう～メタボ・ロコモをやっつけよう～」の開催を契機に、地元自治会から「健康寿命延伸に向けた連携事業」の要請を受けた。地元自治会との協議の結果、2019年4月より1年間地元自治会と大学理学療法学科との連携による「健康寿命延伸を目的とした地域在住高齢者への運動を中心とした健康普及事業」を実施することとなった。本事業の実施に当たっては、野村ステイツ千里丘を含む味舌校区連合自治会のエリア内にある大学理学療法学科が支援、協力することにより、摂津市民の健康寿命延伸に市民自ら取り組み、公・民・学の先進的なモデルをつくることを成果目標としている。
- 本事業にかかわる経費に関しては、自治会が摂津市市民公益補助金を申請することにより確保する。
- 本事業に研究室の学生が参画することにより、臨床（学外）実習に向けた高齢者とのコミュニケーション能力の構築、身体測定知識、技術の向上、さらに卒業研究テーマの策定に寄与することができる。

2. 年間計画

- 年間スケジュールおよび内容について：
 - ①年間スケジュール：2019年5月・7月・9月・11月・2020年1月・3月、1年間に6回（土曜日の午後）、大阪人間科学大学人間科学部理学療法学科教員による、「健康寿命と運動習慣」をテーマとした講義および筋力トレーニングを中心に、運動習慣獲得に向けた非監視型の運動療法指導を行う。
 - ②実施場所について：実施場所は、野村ステイツ千里丘集会所（摂津市千里丘東）とする。
 - ③効果判定について：本事業開始時（2019年5月）、中間時（2019年11月）、終了時（2020年3月）に以下の測定を行い、効果判定を行う。
 1. ロコモティブシンドローム判定：立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ25
 2. サルコペニア判定：年齢、BMI (Body mass index)、握力、歩行速度、下腿最大周径
 3. アンケート：一般特性（年齢、運動習慣、喫煙習慣など）、生活上の変化、健康関連QOLSF 8 上記の測定は、大阪人間科学大学人間科学部理学療法学科奥研究室の学生が実施する。
 - ④1～3の推移から参加者の体力およびQOL、生活上の変化、運動習慣の獲得などをもって効果判定を行う。
 - ⑤さらに、自治会と大学理学療法学科の連携が1年間継続可能かどうか効果判定の1つとする。

3. 活動成果

- 現在まで、5月（研究室学生5名参加）には「健康寿命」についての講義、ロコモティブシンドロームおよびサルコペニア測定会と運動指導を、7月上旬には運動に関する補講を、7月下旬（研究室学生2名参加）に「フレイル」についての講義と運動指導を行った。
- 各講座の前には、自治会責任者と教員で事前打ち合わせを行った。
- 現在までの参加人数は18名である。

4. 地域からの評価

- 地域からは、地域と大学、そして自治体との連携が強化されたとの評価を得ている。
- また、実施を契機に途中参加を希望される住民の意見も聞かれた。

5. 参考WEBサイト

<https://www.ohs.ac.jp/news/5985.html>

6. 活動メンバー

大阪人間科学大学人間科学部理学療法学科3年
赤崎智也、白石幹人、野田温菜、松鹿菜々子、山田康太

7. 担当教員

大阪人間科学大学人間科学部理学療法学科 教授 奥 壽郎

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪人間科学大学	
所属先・職名	人間科学部理学療法学科 教授	
氏 名	奥 壽郎	
連絡先	電 話	06-6383-6441
	メー ル	t-oku@kun.ohs.ac.jp

9. 活動の様子



大学理学療法学科学生が関わる 『地域連携事業「地元自治会と 大学理学療法学科との連携によ る健康寿命延伸を目的とした地 域在住高齢者への運動指導』

大阪人間科学大学人間科学部理学療法学科
奥研究室3年生

赤崎智也、白石幹人、野田温菜、松鹿菜々子、山田康太

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

2018年度大阪人間科学大学公開講座



大阪人間科学大学
2018年度公開講座

健康寿命を伸ばそう！
—メタボ・ロコモをやっつけよう—

2018年
10月14日(日)
13:30～18:00 (受付開始12:00～)
会場 大阪人間科学大学 庄屋学舎 CHSホール

参加無料

講演者
健康寿命を伸ばそう
大阪人間科学大学 理学療法学科 奥 研究室
メタボをやっつけよう
大阪人間科学大学 理学療法学科 奥 研究室
ロコモをやっつけよう
大阪人間科学大学 理学療法学科 奥 研究室

協賛者
健康寿命を伸ばそうプロジェクト

主催
理学療法学科奥研究室「せつつ健康長寿測定会」にて、
大阪人間科学大学 理学療法学科 奥 研究室

2018



大阪人間科学大学国際地域交流委員会が主催、理学療法学科が企画立案担当を行い実施した

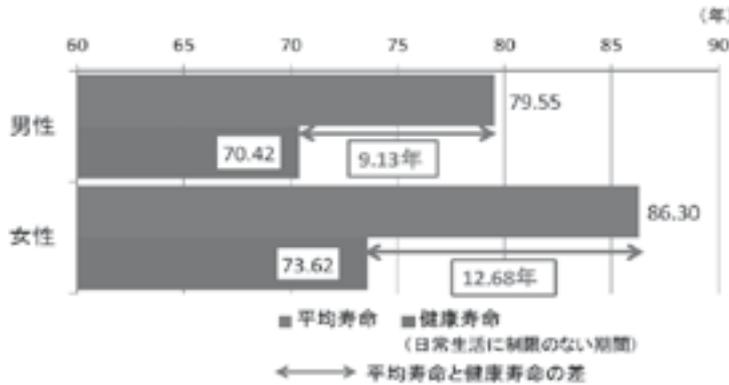
- * メインテーマ：健康寿命を伸ばそう！
—メタボ・ロコモをやっつけよう
- * 講演：①健康寿命を伸ばそう
②メタボをやっつけよう
③ロコモをやっつけよう
④理学療法学科共催のせつつ健康長寿測定会について

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

健康寿命と平均寿命

- 健康寿命
健康寿命とは、日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命を維持し、自立した生活ができる生存期間

健康寿命と平均寿命の差：平成22年

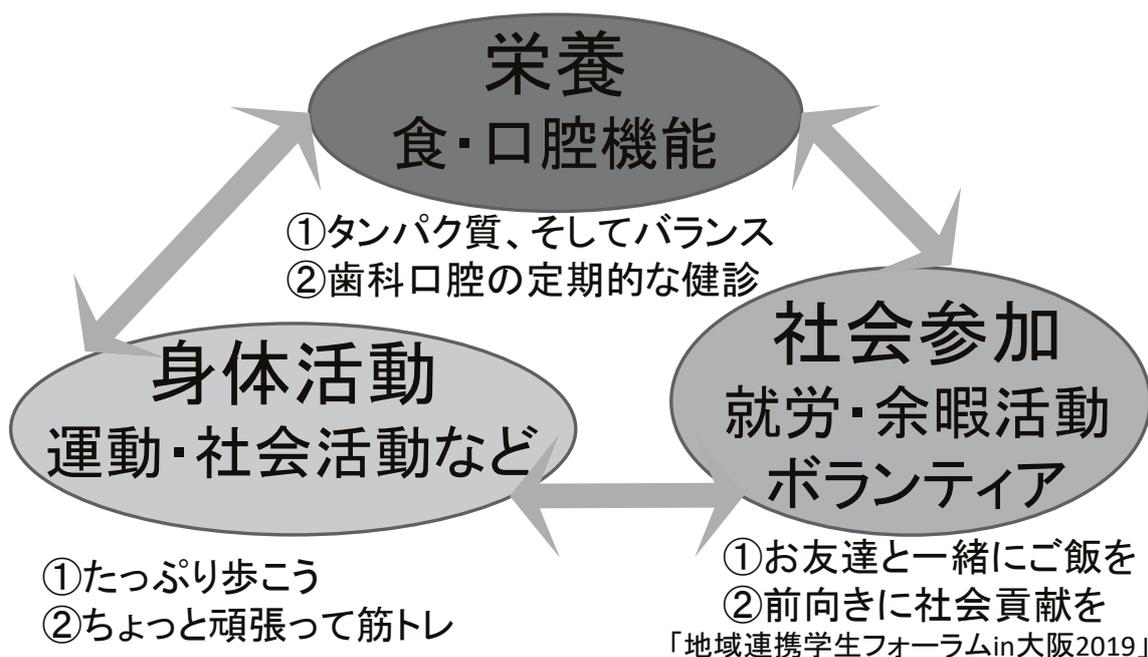


資料：平均寿命(平成22年)は、厚生労働省「平成22年国全生命表」
 健康寿命(平成22年)は、厚生労働科学研究所「健康寿命における健康予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

健康寿命と平均寿命の差は男性は約9年、女性は約12年の差があり、約9年間、12年間介護が必要な状況です。今後何もしなければ介護が必要な状況になります

健康長寿のための3つの〔柱〕

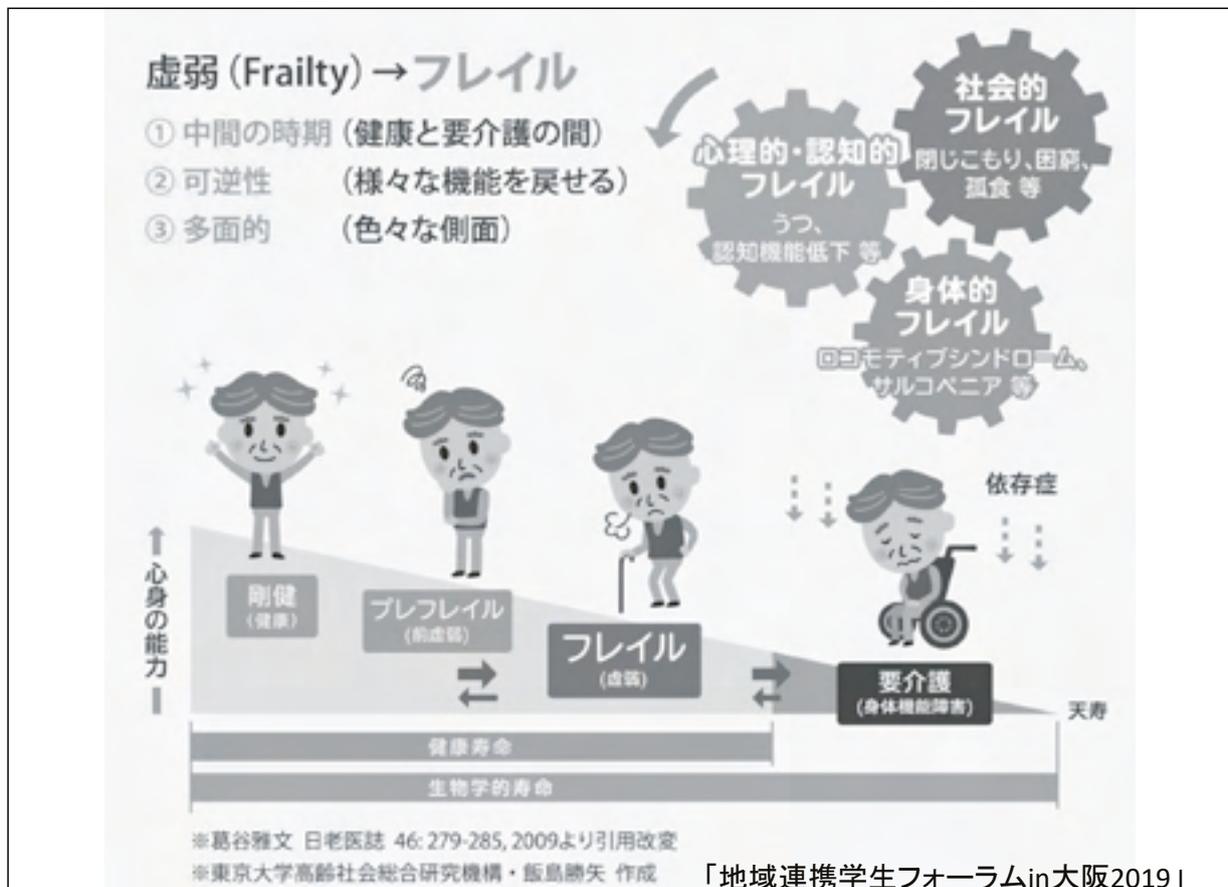
より早期からのサルコペニア予防・フレイル予防



フレイル(虚弱)

- 老化に伴う様々な機能低下(予備力の低下)を基盤とし、種々の機能障害に対する脆弱性が増加しているが、まだ健康を維持できている状態。すなわち健康障害に陥りやすい状態の高齢者をいう。健康障害の中には、日常生活機能障害, 転倒, 独居困難, 入院, 生命予後などが含まれる。

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」



摂津市内自治会から大学とのコラボの要請



2018年度大学公開講座



地元自治会から健康寿命延伸を
テーマとした健康教室を大学との
連携で実施したいとの要望



2018年12月～2019年3月に大学国際
地域交流委員会と自治会による
話し合いを開催



理学療法学科奥研究室が主導：
2019年4月～2020年3月
〔健康寿命を延ばす
筋力トレーニング講座〕

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

『地域連携事業「地元自治会と大学
理学療法学科との連携による健康
寿命延伸を目的とした地域在住高
齢者への運動指導』

〔健康寿命を延ばす
筋力トレーニング講座〕



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

事業背景

- WHOが2000年にその概念を提唱した健康寿命は、「日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命を維持し自立した生活ができる生存期間」を指している。我が国においても健康寿命を高め、平均寿命に対する健康寿命の割合を高めることが政策目標として取り組まれている。このような背景の中で、運動・栄養・うつ・引きこもりなどに焦点を当てた対策が、官民で行われ成果を上げている。
- 2018年度の大坂人間科学大学公開講座「健康寿命を延ばそう～メタボ・ロコモをやっつけよう～」(2018年10月)の開催を契機に、地元自治会から「健康寿命延伸に向けた連携事業」の要請を受けた。その後、公開講座を主催した本学国際地域交流委員会と地元自治会で協議を重ねた。

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

事業目的

- その結果、2019年4月より1年間、地元自治会と大学理学療法学科との連携による「健康寿命延伸を目的とした地域在住高齢者への運動を中心とした健康普及事業」を実施することとなった。
- 本事業の実施に当たっては、野村ステイツ千里丘を含む味舌校区連合自治会のエリア内にある大学理学療法学科奥研究室が支援、協力をすることにより、摂津市民の健康寿命延伸に市民自ら取り組む先進的なモデルをつくることを成果目標としている。

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

事業の概要

場所	野村ステイツ千里丘集会所(摂津市千里丘東)
対象	摂津市味舌校区連合自治会在住の、健常前期高齢者のうち、事業の同意が得られた男女20名程度
方法	<p>* 奇数月に90分間の筋力トレーニング講座を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5月: 初期評価, 講義, 運動指導 • 7月: 講義, 運動指導 • 9月: 講義, 運動指導 • 11月: 中間評価, 講義, 運動指導 • 1月: 講義, 運動指導 • 3月: 最終評価, 講義, 運動指導 <p>➤ 評価: 身体的フレイルの主要な原因であるロコモティブシンドロームとサルコペニアの判定</p> <p>➤ 講義テーマ: 健康寿命に関連したテーマ</p>

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

本事業における学生の役割

◆ロコモティブシンドローム判定, サルコペニア判定の測定



◆運動指導

パンフレットの作成

ステップアップ
トレーニング
メニュー

- ① スクワット
- ② 片足立ち
- ③ ヒールレイズ
- ④ フロントランジ
- ⑤ 膝立て伏せ
- ⑥ 有酸素運動

さあステップアップ
で健康寿命を伸ばそう



大阪人間科学大学
奥研究室

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

◆運動指導
の実演



評価

	ロコモティブシンドローム	サルコペニア
定義	<ul style="list-style-type: none"> ● 移動に関わる「運動器（骨・関節・筋肉など）」に様々な原因のために障害が起こり、歩行や筋力、バランスなどが低下し「要介護になる」リスクが高い状態 	<ul style="list-style-type: none"> ● 加齢に伴う筋力の低下、筋量の減少および運動機能低下（特に移動能力）を来す
判定	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 台立ち上がりテスト ➢ 2ステップテスト ➢ ロコモ25（アンケート） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 握力 ➢ 下腿最大周径 ➢ 歩行速度

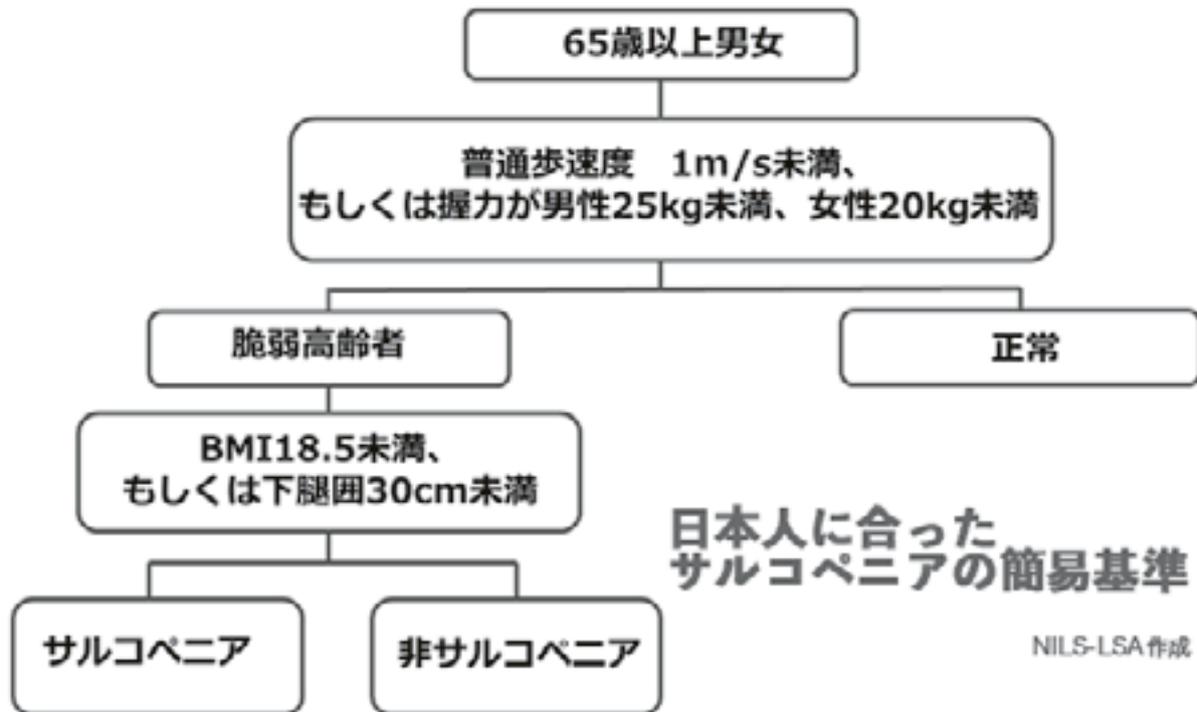
「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

ロコモティブシンドローム判定基準

	立ち上がりテスト	2ステップテスト	ロコモ 25
	<p>片脚の場合</p>  <p>立ちあがって3秒間保持</p>	 <p>最大2歩幅</p>	<p>25項目の質問表 (計100点)</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 階段の昇り降りはどの程度困難ですか。 ● 親しい人や友人とのおつき合いを控えていますか。
ロコモ度1	片脚で40cmの高さから立ち上がることができない	大腿で2歩の歩幅÷身長 = 1.3未満	7点以上
ロコモ度2	両脚で20cmの高さから立ち上がることができない	大腿で2歩の歩幅÷身長 = 1.1未満	16点以上

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

サルコペニア判定基準



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

講義：参加者の要望を参考にして決める

日程

テーマ

5月 『健康寿命を伸ばすには』

7月 『フレイルについて』

9月 『サルコペニアについて』

11月 ？

1月 ？

3月 ？

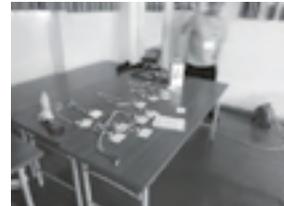


「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

5月講座の準備

・ 講座の準備

・ 案内板



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

5月の講座：講義 テーマ「健康寿命について」



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

学生の自己紹介



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

ロコモおよびサルコ判定

- 身体計測：身長・体重・Body Mass Index(BMI)



- 台立ち上がりテスト



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

• 歩行時間の測定



• 片足立ち時間の測定



• 2ステップテスト



「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

運動指導：
スクワット・フロントランジ・片足立ち



「地域連携学生フォーラムin大阪」

参加者の声

- 学生さんがいてくれて、アンケートなどわかりやすく説明してくれる
- 学生さんに色々な測定をしてくれてよかった。中間評価が楽しみ
- 学生さんを見ていると体の動きが速い、参考になる

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

この事業に関わって

- ① 地域の方々との交流ができ貴重な経験ができた
- ② 学内の授業や学生同士では体験できないことができた
- ③ 安全管理について想定することが必要だと感じた

⇒今後も安全に楽しく取り組んでいきたい

「地域連携学生フォーラムin大阪2019」

学生発表⑧

活動テーマ	布施商店街活性化プロジェクト「ふ・せ・の・わ～笑う商には学生来たる～」
活動場所	東大阪市布施商店街、近畿大学総合社会学部
連携先	布施商店街連絡会、東大阪バーチャルシティ
活動主体	近畿大学総合社会学部 学生

1. 活動概要

「ふ・せ・の・わ」は、2018年に近畿大学総合社会学部の学生と教員、活動支援の社会人により発足し、学生メンバーの若く客観的な感性で商店街をとらえることによる、布施商店街の賑わいの再興を目的とした布施商店街活性化活動を行う。

下記に主な活動を示す。

1. 商店街公式番組の配信
商店街の情報を学生が取材し、動画の制作・編集を行い、商店街公式番組としてYouTubeで配信する。番組内容は、布施商店街のお店やイベントの話題、「ふ・せ・の・わ」の活動報告などである。
2. 布施商店街連絡会の公式サイト管理
布施商店街連絡会の情報発信サイトの管理・運営
3. 商店街でのイベント企画
布施商店街連絡会と連携し、イベントの企画・運営
4. イベント活動のボランティア支援
商店街でのイベント活動に対するボランティア支援

2. 年間計画

1. 布施商店街の取材と動画制作・編集
2. 編集動画を毎月第2・4日曜日のYouTube番組（ふせのわ放送局：布施商店街連絡会公式チャンネル）として配信
3. 常時WebサイトやTwitterでの情報発信
4. 毎月1回の会議
5. 布施商店街でのイベント活動に対するボランティア支援（不定期）

3. 活動成果

1. 商店街の取材、PR動画の制作
2. 編集動画を毎月2回のYouTube番組（ふせのわ放送局：布施商店街連絡会公式チャンネル）として配信
3. 布施商店街連絡会の公式サイト作成・管理。
4. 学生メンバーによる情報発信講習（Twitterによる情報発信スタートのため、希望店舗を個別にまわりアカウントの作成や投稿の仕方、投稿のコツなどを指導）。
5. 店舗の1分程度のPR動画を撮影しYouTubeで配信。
6. 布施駅から布施戎神社への道案内動画の作成。
7. 布施商店街でのイベント活動に対するボランティア支援
8. 活動実績はWebサイト（5章参照）に掲載

4. 地域からの評価

本活動は、2018年4月より始めているが、下記の効果を商店街より期待されている。

- 日常的に商店街を利用する来客数の増加。
- 商店街内にある施設の有効活用。
- 催事での恩恵格差の解消。
- 若い担い手の増加・活用。
- 上記の活動を商店街内外へ情報発信することによる、商店街の周知・認知。

5. 参考WEBサイト

- Webサイト: <https://fusenowa.com/>
- YouTube: <https://www.youtube.com/channel/UC2XltKiSfsM2CO1hDDwJ9Ug>
- Twitter: https://twitter.com/fusenowa_info

6. 活動メンバー

近畿大学総合社会学部 4年 上山 華凜、棚橋 麻衣
3年 大森 拓実、角屋 志織
1年 御手洗 光、大成 静香

7. 担当教員

近畿大学 総合社会学部 保本正芳

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	近畿大学	
所属先・職名	総合社会学部・講師	
氏 名	保本 正芳	
連絡先	電 話	
	メー ル	yasu@socio.kindai.ac.jp

学生発表⑨

活動テーマ	大学における地域連携推進事業への参加
活動場所	森ノ宮医療大学
連携先	大阪市住之江区社会福祉協議会、太陽地区社会福祉協議会
活動主体	看護学科学生及びボランティアサークル「IRIS (アイリス)」

1. 活動概要

大学（看護学科）が主催する地域連携推進事業には、子育て支援活動として「もりもりひろば」、介護予防活動として「ほほえみクラブ」がある。「もりもりひろば」では1歳6か月までの乳幼児とその保護者が参加しており、保護者が安心してプログラムに参加できるよう、乳幼児との遊びを通じてサポートしている。「ほほえみクラブ」では、高齢者の安全に配慮しながら一緒に参加し、雰囲気盛り上げ、運営が円滑に進むようサポートしている。IRISは会場の準備・後片づけも積極的に行っている。

また、今年度より本学が所在する大阪市住之江区南港ポートタウンの太陽のまち地域において、地域の高齢者支援を目的に「もりもりまちの保健室」を開始している。この活動には、IRIS以外にも、看護・理学療法・作業療法学科の教員と学生も参加し、血圧・握力等の測定を行うほか、健康に関する生活上の困りごと等の相談を受け付けている。

2. 年間計画

2019年度
子育て支援「もりもりひろば」年10回
介護予防教室「ほほえみクラブ」年12回
「もりもりまちの保健室」年10回

3. 活動成果

- ◆高齢者の方とコミュニケーションをとる機会があり、普段高齢者と関わる機会が少ない学生でも、たくさん話をする事ができ、医療職を目指す学生の意欲を向上することに繋がっている。
- ◆大学と地域の連携を取ることで現在の地域の特性を知り、直接話をする事でより具体的に地域の人々の考えを聞く事ができている。
- ◆学生自身の健康に対する考え方の受容ができている。高齢者一人ひとりの異なる健康観を知ることや認知症・ロコモティブシンドロームなどの予防のために行う運動を通して学生自身も動く機会が増えた。
- ◆学生が世代の違う他者の思いに触れることで心理面の向上につながっている。
- ◆学生及び教員が、高齢者の方々の健康に関する悩み事などを傾聴することで、身体面の他に精神面でもサポートをすることができている。

4. 地域からの評価

- ◆大阪市住之江区の子育て支援情報紙「わいわい」に掲載。
- ◆太陽のまちふれあいだよりにて「もりもりまちの保健室」の活動が掲載。
- ◆大阪市住之江区南港地域の地域包括支援センターとの連携
 ➡介護予防事業として地域の高齢者へ利用を促している。
- ◆地域の自治会等からも期待されている。

5. 参考 WEB サイト

なし

6. 活動メンバー

- ボランティアサークル「IRIS (アイリス)」
- 看護学科学生
- 各学科教員

7. 担当教員

IRIS 顧問 藤本陽子 (看護学科教授)
看護学科地域連携推進委員会・委員長 大巻悦子 (看護学科教授)

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	森ノ宮医療大学	
所属先・職名	大学経営企画室	
氏 名	寺脇 未倅・村上 智一	
連絡先	電 話	06-6616-6911 (代)
	メー ル	terawaki@morinomiya-u.ac.jp (寺脇) tomokazu_murakami@morinomiya-u.ac.jp (村上)

9. 活動の様子

2019年度 地域連携推進事業予定表

「もりもりひろば」 予定表 開催時間 10:00~12:00

回	開催日	テーマ
1	4月27日	なにしてあそぼ (保育士)
2	5月25日	がんばりすぎない子育て (保育士)
3	6月8日	離乳食から幼児食へ
4	7月6日	保健師課程学生 of 健康教育
5	9月7日	ベビーマッサージ
6	10月5日	小児鍼によるファミリーケア (増山先生)
7	11月9日	子供の感染症
8	12月14日	お母さんのヨーガ (久木元先生)
9	1月25日	赤ちゃんの運動発達 (澤田先生)
10	3月14日	乳がんのセルフチェック

「ほほえみクラブ」 予定表 開催時間 10:30~12:30

回	開催日	テーマ
1	4月20日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A たっぷりスリー A 認知症予防ゲーム
2	5月18日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「擦過鍼で認知症予防—認知症知らずでほほ笑んで生きる—」 (鍼灸学科教員)
3	6月15日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A タッピングタッチ
4	7月20日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「ニューロダンス! 日常生活をリフレッシュ」 (作業療法学科教員)
5	8月17日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A たっぷりスリー A 認知症予防ゲーム
6	9月21日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「チェアーヨガを体験して、呼吸と簡単な動作を合わせて、心と身体を整えましょう」 (看護学科教員)
7	10月19日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「より良く歩くためのトータルエクササイズ①」 (理学療法学科教員)
8	11月16日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「より良く歩くためのトータルエクササイズ②」 (理学療法学科教員)
9	12月21日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A たっぷりスリー A 認知症予防ゲーム
10	1月18日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「転倒予防、認知症予防のための棒体操」 (作業療法学科教員)
11	2月15日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「たっぷりスリー A 認知症予防ゲーム」
12	3月21日	<ul style="list-style-type: none"> スリー A 「栄養をバランスよく」 (管理栄養士)

「もりもりまちの保健室」 予定表 開催時間 10：00～12：00

回	開催日	テーマ
1	5月18日	高齢者の方々の健康診断（血圧、握力等の測定）や健康に関する困りごとについての相談の受け付け
2	6月15日	
3	7月20日	
4	9月4日	
5	10月19日	
6	11月6日	
7	12月21日	
8	1月18日	
9	2月15日	
10	3月21日	



「もりもりひろば」の様子



「もりもりまちの保健室」の様子



「ほほえみクラブ」の様子

森ノ宮医療大学 ボランティアサークルアイリス 活動報告書

私たちは、森ノ宮医療大学ボランティアサークルのアイリスです。部員数は、117名と大規模なサークルです。私たちの活動内容として、毎月一回定期的で開催するほほえみクラブ、もりもり広場、保育園活動を始め、認知症の方を対象としたオレンジカフェ、大阪マラソンボランティア、地区運動会のボランティア、小児病棟でのイベント、地域でのゴミ拾いなどが挙げられます。その他、各要請に応じてボランティアに参加をしています。

特に、今回はほほえみクラブともりもり広場の活動について説明します。どちらの活動も、本学で開催しています。ほほえみクラブの対象者は、主に地域の高齢者の方々です。それに対して、もりもり広場は地域に住む乳幼児期などのお子さんをもつお母さんを対象としています。各対象者様に実際に本学へ足を運んでいただき、様々な活動を行っています。

次に、各活動について説明します。はじめに、ほほえみクラブについてです。ほほえみクラブは、毎月第3土曜日に活動しています。この活動の目的は認知症予防です。各開催日によってテーマは異なり、各専門分野からのアプローチで健康をサポートしています。その中でも、毎月共通して焦点を当てているのがスリーA認知症予防ゲームです。スリーAの語源は、「明るく、頭を使って、諦めない」という3つの単語の頭文字からきています。本学看護学科の教員が主導となりこの活動を行います。私たちアイリスは、そのサポートや開催準備、血圧測定、対象者様との交流を行います。実際に沢山の交流の中で、「今日も楽しかった、元気をもらったよ」など嬉しいお言葉もいただくことができました。また、自分の意思でボランティアに参加することで、コミュニケーション能力の上達や将来の方向性などの探求につながっています。

次に、もりもり広場についてです。もりもり広場は、毎月第1土曜日に活動しています。毎月子育てに役立ちようなテーマを設け、本学の教員や、時にはゲストをお呼びして講義をしていただきます。お母さん方がもりもり広場に参加している間は、私たち学生がお子さんの面倒を見ます。その間に、先生方に相談事をしたり、お母さん同士で交流をしていただいています。継続して来てくださる方もいて、私たちもお子さんの成長を感じることができるので、発達の勉強にもなっています。

ボランティアを通して、対象者様へのサポートを行うだけでなく、学生自身の意欲向上や、コミュニケーション能力を含め将来医療職を目指す上で必要な様々な能力を蓄積することができていると感じます。このような内容が、森ノ宮医療大学ボランティアサークルアイリスの活動の一例です。

！！健康に関する困りごとご相談ください！！

「もりもり まちの保健室」

森ノ宮医療大学では、太陽のまちで開催されている「ふれあい喫茶」の中で、月に1回「もりもり まちの保健室」を実施いたします。

本学の看護学科、理学療法学科、作業療法学科の教員や医療を学ぶ学生が、健康に関する困りごとなどをお聞きします。参加無料となっておりますので、お気軽にお越しください。詳しくは下記の詳細をご覧ください。



～詳細～

<日時> 5月18日（土）、6月15日（土）、7月20日（土）、9月4日（水）
10月19日（土）、11月6日（水）、12月21日（土）

令和2年1月18日（土）、2月15日（土）、3月21日（土）

* 時刻はいずれもふれあい喫茶の時間です（AM10：00～PM12：00）。

<場所> 大阪府住之江区南港中4-5-6「太陽社会福社会館」1階

* ふれあい喫茶と同会場になります。

<実施内容>

- ・ 血圧や握力の測定、その他身体測定などをさせていただきます。
- ・ からだやこころのこと、また、生活の中で困っていることなどご相談ください。



<参加費> 無料

<参加方法> 事前の予約等はいりませんので、お気軽にお越しください。

* ご不明な点がございましたら下記問合せ先までご連絡ください



想いのすべてを、医療の力に。

（問合せ先）

〒559-8611 大阪府住之江区南港北1-26-16

TEL：06-6616-6911（代表） FAX：06-6616-6912

森ノ宮医療大学 地域連携センター 小島 寺脇 村上

森ノ宮医療大学

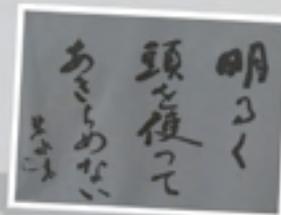
IRISは地域の人々と交流しながら活動しています。
今回の報告は地域の「子育て支援」「介護予防教室」について紹介します。
この他の活動としては、オレンジカフェ（認知症カフェ）・保育園・地域清掃・大阪マラソンなどのボランティアをしています。



ほほえみクラブ

▷活動について

- ・毎月第3土曜日本学で開催 ・地域に住む高齢者が対象
- ・スリーA認知症予防ゲーム（毎月実施）
- ・各専門分野の講師による健康をサポート（毎月変更）



実施例

- 「擦過鍼で認知症予防（鍼灸）」 「タッピングタッチ」
- 「ニューロダンス！日常生活をリフレッシュ（作業療法）」
- 「チェアーヨガで呼吸と簡単な動作を合わせ心と身体を整える（看護）」
- 「転倒予防、認知症予防のための棒体操（理学療法）」 「栄養をバランスよく」

▷学生の役割

- ・血圧測定 ・対象者さんとのコミュニケーション・講師の先生方のサポート
- ・対象者さんが無理な動作をされていないかを観察し安全確保 など

ほほえみクラブのボランティアを通してたくさんの利点を得ることができました。そのうちの一つに、様々な高齢者の方とお話することでコミュニケーション能力の向上が挙げられます。言語的要素のみではなく、非言語的要素の重要性を身を持って体験することができました。講義で学んだ高齢者の方の特性・心理的影響・社会的役割などについてさらに追及し考えるきっかけに繋がっていると実感しました。

言葉遊びの様子



棒体操時の様子



今後の活動に向けて。

現在、ボランティアを通して学生の意見を聞き、良い点と改善点の反省を行っています。今後、対象者の方からご意見や感想を無記名で伺いたいと考えています。そして、いただいた意見を通してさらに森ノ宮医療大学のボランティアが推進することができるように働きかけを行っていきたいです。また、ボランティアを通して私たち学生自身が日々成長させていただけることに感謝の念を忘れることなく、今後の活動にも励んでいこうと思います。

もりもりひろば



もりもりひろばは、毎月第1土曜日に校内で行っている活動です。月ごとに子育てに役立つようなテーマを設け、時には外部の講師を招いたり、学生が講義を行うこともあります。

テーマ

「なにしてあそぼ」「がんばりすぎない子育て」「離乳食から幼児食へ」「嫌がられない歯みがき(学生)」「ベビーマッサージ」「小児鍼によるファミリーケア」「子どもの感染症」「お母さんのヨガ」「赤ちゃんの運動発達」「乳がんのセルフチェック」



ゲストの保育士さんが子どもとの遊び方や簡単なおもちゃの作り方を教えてくれました



もりもりひろばに来てくださっている間、お子さんは私たち学生がみています。

お互いに子育てについて話したり、先生や講師の方に相談したりして、息抜きや悩みをはき出せる場にしてもらうこともこの活動の目的です。



絵本の読み聞かせも、IRISの大切な役割です

お母さんから子育ての大変さを教えていただいたり、赤ちゃんの発達を見ていくことができ、とても勉強になります



もりもりまちの保健室

活動の紹介

森ノ宮医療大学では、大阪府の南港にある「太陽のまち」で開催されている「ふれあい喫茶」の中で、月に一度「もりもり町の保健室」を実施しています。

「もりもり町の保健室」の活動内容は、血圧や握力の測定をはじめ、からだやこころのこと、また、生活の中で困っていることについてのお話を聞いています。

本学の看護学科、理学療法学科、作業学科、鍼灸学科の学生が協力し、教員と共に活動しています。

来られる方

一回平均15人ほど来られます。その多くは太陽のまちに住む高齢者（特に75歳以上）の方で、中には車いすを使用されている方も来られます。測定を目的として来られる方ばかりでなく、病気や障害、別れをはじめとするこころの悩みやお話を目的とした方も多いです。



外でのピンチ力（ものをつまむ力）の測定の様子



血圧測定、健康相談の様子

学んだこと

- ・「ふれあい喫茶」が一人暮らしをする高齢者にとっての交流の場となっている
- ・傾聴することの大切さ
- ・相手の情報を聞き出すこと、伝えることの難しさ
- ・個別性を捉えたバイタルサイン測定
- ・高齢者の方は様々な悩みを抱えていること
- ・高齢者の特徴
- ・別の面からみる高齢者へのアドバイス

今後の活動へ向けて

- ・参加者を集めて活動を大きくしていく
- ・地域とのかかわりを深めていく
- ・一人でも多くの高齢者の方に健康の大切さを伝えられるようにする



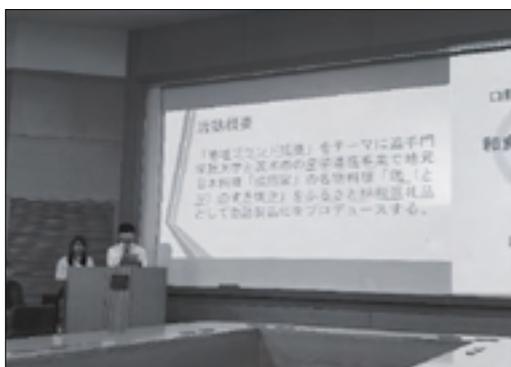
当日の様子



司会



学生発表①



学生発表②



学生発表③



全体の様子



発表を受けた交流会



全体の様子



メッセージボード

学生フォーラム 学生企画メンバー 活動の様子

活動スケジュール（実績）

回	開催日	検討内容等
第1回	5月27日	フォーラム概要 検討
第2回	6月10日	企画・募集要項 検討
第3回	7月4日	企画検討
第4回	8月10日	企画検討
第5回	8月22日	事前交流会の内容 検討
第6回	9月25日	<ul style="list-style-type: none"> フォーラム詳細 検討 事前交流会の詳細 検討
第7回	10月5日	<ul style="list-style-type: none"> 事前交流会 当日運営 当日の企画 検討
第8回	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> 延期にあたっての企画の再調整 自治体（大阪市民局）との意見交換
第9回	2月3日	最終スケジュール調整
第10回	2月10日	前日準備、最終調整

学生企画メンバー（大学名五十音順） ※1回以上参加した者

氏名	大学	所属学部・学科
田 渕 真 羽	大阪市立大学	商学部
名 部 拓 馬	大阪市立大学	商学部
菅 彩 乃	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻
芝 南々帆	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻
高 津 地 世	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻
斎 藤 晶 帆	大阪学院大学	商学部 商学科
春 名 謙 心	大阪学院大学	商学部 商学科
下 島 菜々子	大阪電気通信大学	工学部 環境科学科
波 元 玲 奈	大阪電気通信大学	工学部 環境科学科
堀 江 遼	大阪電気通信大学	工学部 環境科学科
尾 崎 美 紀	関西大学	化学生命工学部 化学・物質工学科
桑 田 紫 乃	関西大学	政策創造学部 政策学科
津 田 和 香	関西大学	商学部 商学科 マネジメント専攻
山 崎 健 司	関西大学	社会安全学部 安全マネジメント学科
山 田 香 穂	関西大学	社会学部 社会学科 心理学専攻
小 林 朋 揮	近畿大学	総合社会学部 総合社会学科
高 田 康 生	近畿大学	総合社会学部 総合社会学科
中 本 陸	近畿大学	総合社会学部 総合社会学科
西 田 直夕起	近畿大学	経済学部 経済学科
森 樹 久	近畿大学	総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻
大喜多 優 真	四天王寺大学	人文社会学部 日本学科

(計7大学21名)

活動の様子

<p>キックオフミーティング（第1回）</p> 	<p>企画メンバーの初顔合わせ。 学生フォーラム当日までのスケジュールを確認しながら、大切にしたいコンセプトなど、方向性について話し合いました。 また先輩メンバーがリードしながら、過去の開催状況や課題などについても共有されました。</p>
<p>ミーティングの様子</p> 	<p>ミーティングにおいて、広報手法、発表形式、事前交流会の内容やフォーラムの詳細について検討を行いました。今回のフォーラムへの参画メンバーが21名と過去最高となり、広報、企画、総務などチームに分かれ検討しました。</p>
<p>発表者事前交流会（10月5日）</p> 	<p>学生発表者が、フォーラム当日をスムーズに迎えられるよう、交流会を開催しました。 フォーラムの発表順のくじ決めや、自己紹介ゲーム、また当日の来場者に配布するメッセージカード作りを行いました。 企画・運営メンバー、発表学生が一体となったフォーラムとするべく、楽しい雰囲気の中で親睦を深めました。</p>
<p>フォーラム中止→2月に延期決定！</p>	<p>今年はフォーラムを予定していた当日に、近畿地方に台風が最接近したことから、参加者の安全面を考慮し、やむなく中止に……。その後、当日まで準備を重ねてきた企画メンバー、また参加学生の意向を汲み、2月に延期開催が決定し、企画メンバーも気持ち新たに本番に向けて準備を進めました。</p>

フォーラム当日（2月11日）



一度は開催が見送られたフォーラムでしたが、メンバーや発表学生の思いが実り、無事当日を迎えることができました。

フォーラムでは学生による発表をはじめ、それを受けた参加者間の意見交換を行うなど、積極的な相互交流の場を設けました。



各発表に対するフィードバックとして、参加者の感想などを書いたメッセージカードを寄せ合いました。

フォーラムのテーマである「5カン」をモチーフに、5枚の花びらにそれぞれメッセージを貼っていくもので、最後には7つの大輪の花が咲きました。

皆さん、お疲れさまでした！



学生企画メンバー アンケート集計

1. 学生企画運営メンバー募集を知ったきっかけ

1. 大学（教職員）からの案内	8
2. 大学のメールマガジンなど	3
3. 友人知人からの紹介で	0
4. 大学コンソーシアム大阪のチラシ	0
5. 大学コンソーシアム大阪のHP	1

2. 企画運営メンバーに応募しようと思った動機（複数回答可）

1. イベントの企画・運営に興味があったから	9
2. イベントの内容・テーマに興味があったから	1
3. 就職に役立つと思ったから	3
4. ボランティアに興味があったから	1
5. 他大学の学生と交流したかったから	7

3. 今回の活動期間について

1. 適切であった	7
2. 適切でなかった	0
3. どちらともいえない	5

4. 設問3. で、2. 3. を選んだ理由

その理由 【どちらともいえない】
<ul style="list-style-type: none"> あまりミーティングに参加できなかった。 スケジュールが合わず行ける日が少なかったため、早めに固定の日程があった方が良かったと思った。 活動期間が長かった割にはあまり意見などが固まっていなかった気がした。 メンバーの人数そのものが大規模だった

5. 今回の活動頻度について

1. 適切であった	5
2. 適切でなかった	4
3. どちらともいえない	3

6. 設問5. で、2. 3. を選んだ理由

【適切でなかった】

- ミーティングが少なく、開催されてもなかなかメンバーが集まらず話についていけない時があった。
- 参加人数が少なかったから
- もうちょっと会いたかった。
- ミーティング回数が少なすぎると感じた。その日程も決まるのが直前なので参加出来ないことが多かった。

【どちらともいえない】

- 8回全てに出たわけではなく、4回程度なので、適切かどうか判断が難しい。

7. 今回の活動を通じた自身の満足度について

1. 満足	3
2. やや満足	6
3. 普通	2
4. やや不満	1
5. 不満	0

8. 設問7の理由

【満足】

- 楽しかったし、参加者の方にも他の企画メンバーにも楽しんでもらえた。
- 他大学との交流が深められたから。
- 広報広告も作成することが出来、有意義でした。

【やや満足】

- 開催できたことに関してはとても満足していますが、上手くグループをまとめることができなかったことについて反省しています。
- 活動して、色々企画しましたがそれが延びてしまい、流れが途切れてしまったこと。
- 達成感を得られたから。
- まだまだ出来ることがあると感じたから。
- 当日ドタバタしてしまったので、事前準備を全員でもっとしっかりするべきだったから。
- 会場は変わってしまったというより、より自由度が高くなり正直やりやすかった。

【普通】

- 当日の朝にバタバタしてしまった。毎年の企画メンバーに対し、今年は当日のスタッフが少なく役割分担がバラけてしまった
- やりがいは前回や前々回の方が感じた気がした。

【やや不満】

- 前回のミーティングで決定した内容が、その次のミーティングでは異なる内容に進むから。

9. 今回の活動を通じて、自身を成長させることができたか

1. できた	8
2. できなかった	1
3. どちらともいえない	3

10. 設問9の理由

【できた】

- 積極的に物事に関して動けるようになった。
- 自分が発表する側を経験は何度かしていたので緊張はあまりしなかったのですが、今回のイベントの参加で、司会は初めてやったのですが、発表者側と違う緊張で固くなってしまったことや急に司会をすることになり、軽い準備しかできなかつたりして、ぐだぐだだったことなど経験できたからです。
- PPTで新たな広告を作成するために、いろんな広告チラシを研究したり色彩が与える効果等興味を持てるような内容を調査することが出来たのでとても楽しかったです。
- 自分の考えを述べるよう努力したから。
- 学外でボランティア活動に参加することで自分から動く力をつけることができから。

【どちらとも言えない】

- 自分自身に成長というものが常に感じられない。
- 他の人に任せてしまうところが多々あったから。

11. 今後もこのようなイベントの企画・運営に携わりたいか

1. 携わりたい	7
2. 日程や都合があえば携わりたい	5
3. 携わりたくない	0

12. この活動を友達や後輩に勧めたいか

1. 勧めたい	7
2. 勧めたくない	0
3. どちらともいえない	4

13. この活動に参加した感想や上記で回答した以外の意見

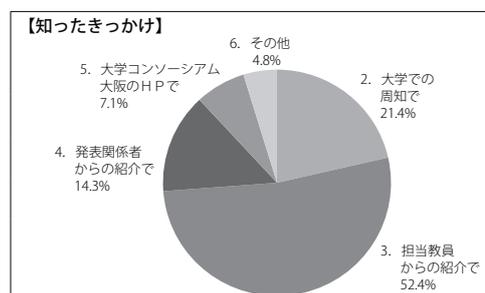
- 毎年企画メンバーとして、関わることができとても幸せです。3回実際に関わり全体を見渡すと毎年違うアイデアが生まれやりがいがあると感じます。
- 最初何十人もいて、こんなに集まるのだなと思っていたのですが、イベント当日最終的に7.8人しかいなかったことに驚きでした。
でも、人数が少なくなったことにより、利点もありました。人数が少なくなったことにより会議の意見がまとめやすくなったことが一番のメリットだと思います。ただ、少なくなったことで1人1人特に中心人物の仕事量が明らかに増えてしまったことが1番のデメリットだと思います。また、こういったイベントがあれば、地域連携学生フォーラム以外のイベントがあれば教えてもらいたいです。(笑) 今年就活がありますが出来ることならこのイベントに参加したいなと思っています。とても良い経験に繋がると思うので参加したいと思っています。ありがとうございました。
- 来年も参加したい

参加者アンケート 集計

(回答者42名)

1. このイベントを知ったきっかけ

1. チラシを見て	0
2. 大学での周知で	9
3. 担当教員からの紹介で	22
4. 発表関係者からの紹介で	6
5. 大学コンソーシアム大阪のHPで	3
6. その他	2
合計	42



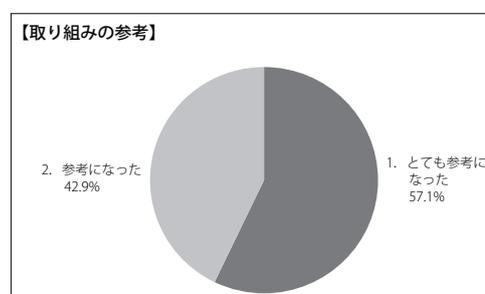
(その他)

* 行政から

* あさがお ML

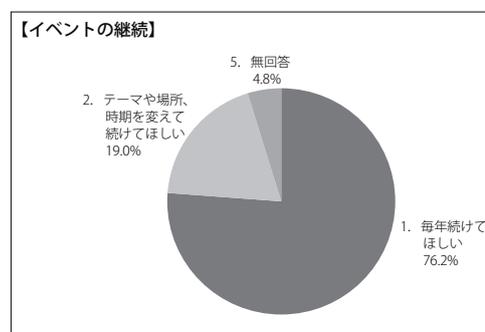
2. 今後の研究や地域連携の取り組みの参考になったか

1. とても参考になった	24
2. 参考になった	18
3. あまり参考にならなかった	0
4. その他	0
合計	42



3. イベントの継続について

1. 毎年続けてほしい	32
2. テーマや場所、時期を変えて続けてほしい	8
3. あまり続けてほしいと思わない	0
4. その他	0
5. 無回答	2
合計	42

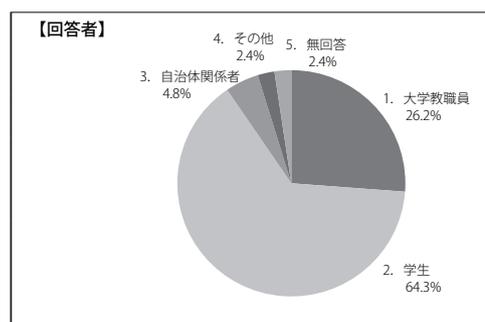


2の詳細

- 時期を要検討してほしい
- 日にちを変えて欲しい。
- 時に時期は仕方ない変更でしたが変えてほしいと思います。
(3、4年生が参加しやすいように)

4. 回答者

1. 大学教職員	11
2. 学生	27
3. 自治体関係者	2
4. その他	1
5. 無回答	1
合計	42



(その他)

* 社協職員

5. 発表内容について、関心をもった点やその理由

【口頭発表】

①追手門学院大学 【和食店のふるさと納税返礼品に供するブランド拡張の研究】

- 商品プロデュースを成功されたところはよかった。西淀川区では「特産品」というものが少ないので助力してほしいと思いました。
- 大変よい活動でした。市の活性化に繋がる。
- インフラ停止時に対する対策はとても難しいと思いました。
- 産学官の連携が素晴らしいと思いました。
- 産官学連携を行う上での3者のメリット、成果が明確でよかったです。
- 災害が増えていることを考慮した商品という着眼点がよかった。
- 3つの柱それぞれがメリットになる素敵な活動だと思います。
- 缶詰めは保存食として良いと思います。
- 缶詰め商品に着目し新商品を開発されたこと。アンケートや心理学を取り組んだ商品開発が素晴らしいと思いました。
- 地域ブランドを開発・拡張する事によって、地域に貢献する点。「まちづくり論 A/B」という授業で、地域創生やブランドづくりについて学んでいたからです。
- 自分たちでブランド商品を作るということで自分たちの活動を似ているところがあり関心を持ってました。
- 缶詰の中身だけでなくパッケージや型など消費者が求めるものについてしっかりと考えられていたのが良かったです。
- 缶詰製品化に関心をもちました。
- ふるさと納税に対する意識が国民的に低い地域もある中でこのようなことを行ったのは素晴らしいと思います。
- 事業の3主体が連携しているところに関心を持った。
- 返礼品というアイデアはおもしろいと思いました。価格の決定プロセスを知りたかったです。
- 地元を盛り上げたい熱意がすごく伝わってきた。
- 市場調査、パッケージ開発、アンケート実施、広報活動により事業経営の安定化、事業リスクの分散、事業発展に寄与しているというのが印象的だった。
- イオンでも販売予定があるのはすごいと思った。
- ふるさと納税の返礼品として。
- お店と協力してかん詰を作り地域支援をしているのがすごいと思いました。
- ないものの缶詰展開と納税返礼品とのリンクが良いと思いました。商品買ってみたいと思います。
- Problem Based Learning、缶詰
- 地元の食の味を守るというオリジナルな点に興味を持ちました。

②大阪産業大学【野崎参道商店街における学生と地域の価値共創活動】

- IoTパズルの企画はよかった。スポンサーの企業がいたからできたとのことでしたがそういった企業と地域が結びつくことが素晴らしいと思いました。
- 産業大学という強みを活かして、IoTパネルやマップのWeb化、企業との協同連携商品開発など様々な事業を展開しておりとても興味深かった。
- 多方面より地域の活性化に寄与したよい活動
- 人間や環境のみならず動物まで着手しているのはすごいと思った。
- クラウドファンディングなど新しい活動に興味を持ちました。
- 子どもや若者をイメージして取り組んでいたことがよかったです。
- 商店街大学という表現が分かりやすく考えられた企画も興味のあるものだった。
- 今の社会問題か流行りをしっかり取り入れててよかった。クラウドファンディング49万は中々できることでないのでとても驚きました。
- 多くの企画実施を行っていたことに感心した。パワーポイントと冊子の内容が大きく異なっていたため見にくかった。
- 助成金いいです。
- IoTとパズルで子どもの関心を結びつける方法は素晴らしいと思いました。
- 「商店街大学」という名目の活動。商店街との連携によるフィールドワークに参加した事が無いので興味を持ちました。
- 自分たちでホームページを作ったことやクラウドファンディングを使って商品開発を行っている点に関心を持ちました。
- IoTパズルやHP作成など様々なことに取り組んでいて柔軟性があり良かったです。
- 地元が近いので関心を持ちました。
- 介助犬が必要とする人々への支援は本当に良いものだと思います。
- 色々な活動をされていることが良く分かった。マップ作りについてももう少しプロセスが知りたかったです。また外部とのリンクはぜひ貼るべきだと思いました。
- 自らでクラウドファンディングを行うなど行動力がすごいと思った。
- 様々な企画を通して地域活性化の活動を実施されていてその中でも特に創意工夫をこらしたIoTパズルが印象的だった。
- 地域の祭りやクラウドファンディングなど様々な活動を行っていてすごいと思った。
- クラウドファンディングを用いる。
- 地域の人とのかかわり、様々な企画を立てて交流を深めているのが関心を持ちました。
- 沢山の企画がありましたが、注力企画（目玉発表）が何なのかを知りたいと感じました。
- 介助犬、GLC Japan
- クラウドファンディングを利用されている点が面白いと思いました。地元だけでなく、より多くの方にアピールできると思います。

③大阪電気通信大学 【寝屋川の水辺を守る活動－大学と市民と行政の協働】

- 担い手不足（若者）の地域団体と大学生の協働はどの地域でも望んでいることと思います。
- 地元寝屋川との連携を通じて地域で起こっている課題に取り組んでいて良かった。
- 地域の自然環境に着目し市民へ広がったよい活動
- 環境についての興味がわきました。（他1名）
- 活動を継続することで市外への展開に繋がっていることがよかったです。
- SDGsでも「水」「森林」の問題は活動したくても難しくできないにも関わらず、様々な組織と連携して実践できたのはすごいと思った。
- クリーン活動のみをイメージしていたのですが企画や発表を行うなどフィードバックも行って事業・プロジェクトが長続きすれば良いと考える。
- ボランティアで集まるのはすばらしい
- ボランティアを地域を継続して活動する事で寝屋川の更なる環境の改善になると考えます。
- 楽しい試みだと感じた。当然のようで誰かが必死に守ってくれる自然を大切にしようと思った。
- 地域住民との関わり合い、水質改善への認知度、ボランティア精神の向上→寝屋川の水質改善への取り組み、外来種が好む水辺や水質環境の消印への取り組み
- 環境問題の解決に向けた活動。学生が主体となって活動するのは、大院大にも導入すべきだなと感じたからです。
- 寝屋川市で行われている活動ということや摂南大学の生徒も参加しているという点に関心を持ちました。
- 川を綺麗にするだけでなく、この事業を引き継ぐ若者を集めるにはどうしたらいいかしっかりと考えられていて良かったです。
- 寝屋川をきれいにしてください。
- 大阪付近は水が本当に汚いのでこの活動は良いと思います。
- 寝屋川の貴重な自然を再生しようという試みはとても良いと思ったし関心を持った。
- アリゲーターガーでこまっていたら、どうしたら助けてもらえるのかが知りたかったです。
- 市の職員さんの意見を取り込んでさらに下の世代まで考えを広げて行ってほしい。
- 水辺環境整備の観点から様々な活動をされていて、特に外来生物の捕獲などへの取り組みは子どもでも参加しやすそうで将来的に活かそうだなと思ってきていました。
- 地域団体と大学生の協働というシンプルなつながりが大きな活動となっており、すごいと思った。
- 大学地域の自然の再生
- 実際に水辺をきれいにし環境改善しながら大学、市民、行政との協働をうまくかかわっているのがすごい。
- 地域の特性に注目した取り組みは興味深いと思いました。外来魚の駆除は重要な活動であると思います。
- アリゲーターガー、エコ部
- 地元に自然に触れながら、地元へ貢献する、また地元を守るために自分達にできることをよく考えて活動されている点が印象に残りました。

④ 摂南大学 【地域の特産物を用いた大学ブランド商品の企画・開発・販売】

- 1つの事を発想から具体化していくことは中々出来ないことと思います。「初瀬姫」一度飲んでみます。
- 私の大学で行っている事業と通じる所がありとても興味深かったです。
- 地域のブランドに目を向けた商品開発でよい活動
- 新しい食品を作るというのはとても難しいと思ったので少し関心を持ちました。
- 結果が出ていて素晴らしいと感じました。
- 一から作り上げていくプロセスが分かってよかったです。地域のPRもがんばってください。
- シソとみかんの入浴剤とサツマイモとみかんピールのお酒共に意外な組み合わせで実際に試してみたいと思った。
- 自分たちで1から製造しつつ協働先を見つけて販売までできたのはすごいと思った。
- 本学でもビジコンを行っているのですが、商品化まで至っていないものが多いため参考になった。新規性などの目新しさが増えると販売化につながるといえる。
- 地元こだわらずさまざまな連携が素晴らしい。
- 理工学部があることで味、風味の改善、研究が行え商品のクオリティを上げられるメリットが生まれて良いと思いました。その為他学部と連携は必要だと考えます。
- 商品開発への熱意を強く感じました。
- 地域特産品による新商品の開発 入浴剤と酒造 理工学部の方々が多いようですが文系出身の方も活動されていて素晴らしかったです。
- 「摂南大学といえば〇〇」と言われる商品開発。大学を象徴する”物”が大院大には無いのであれば良いなと感じたからです。
- お酒買いに行きたいと思いました。
- 販売や企画など幅広く行われていたので企業のやっていることのように思えました。
- お酒を作るという他では中々得られない内容を発表してくれた。非常に興味深く大変刺激的だった。
- 地域の特産物を使っている所以地域の魅力を伝えることができると思います。
- 今後も摂南大学を代表する、そして寝屋川市を代表する商品を作ってほしい。
- 地域の特産品を使用した商品の企画、開発、販売に際して自分たちで試作などをされているのがすごいなと思った。
- 様々な試行錯誤の中で商品化までできてすごいと思った。
- みかんの皮は再利用の面でも良いと思った。
- 地域の特産でお酒やバスボムなどを作り考えているのがすごいと思いました。
- 地域の特産物を活用する視点が良い。モノを売るのではなくストーリーを売る視点が強いとなお良くなるのではないだろうか。シソの入浴剤は経済性が課題か。
- 文理融合の企画で大学らしい発想であると思いました。今後の展開に期待します。
- 学生さんが主体となって活動を進めている点が印象に残りました。

⑤大阪成蹊大学【「食」を通じた地域活性化に向けた取り組み～大阪池田チキチキ探検隊～】

- すごく資料がまとまっており、発表もわかりやすかったです。西淀川区も「食」のアピールをお願いしたいです。
- 企画だけではなく、継続的にイベント、料理開発等地域を全て巻き込んでいて素晴らしいと思った。
- 地元のブランド力を利用した活動
- パンフレットがとても見やすかったです。
- SNSを通しての地域活動に興味を持った。
- 自分たちの足で情報を集めているのがよかったです。
- メディアやパンフレットで池田市とうまくPRできていると感じた。オリジナルメニューもアイデアが良かった。
- 失敗を失敗のままにせず改善していく。積極性も良かった。行政も上手に使えていたので他の大学の学生たちの刺激になったのではないかと思います。
- クーポンがついていたり、カラフルで分かりやすく見やすいパンフレットを作成したことでチキンラーメンの認知度の向上、販売促進につながったといえる。
- 良かったです。
- 学生が考えたパンフレットは顧客の集積、ドリンク販売では英字によるインバウンド向けと市場の戦略が考えられていると感じました。
- 学生がしているとは思えないほど洗練されていた。感心した。
- 池田市の観光資源を上手く活用し様々な地域活性活動を行っていたことが素晴らしいと思いました。SNSを活用した宣伝も工夫されていて良かったです。
- インスタントラーメンの広報活動。大阪学院大学の吹田くわい活動との共通点を感じました。
- 実際にお店を回って、パンフレットに掲載したり自分たちで動画を作成している点に関心を持ちました。
- 聴講者に発表中に質問したりして聴講者を巻き込んで発表していたのは参考になりました。
- 長期に渡って食の良さを伝えていて本当に良い活動と思っています。
- チキンラーメンという庶民的な商品をベースに私達にとってもとても興味深い内容だった。
- 地域の魅力であるチキンラーメンを作っているのが池田市のことをアピール出来ているなと思った。
- 色々な角度からアプローチされていて良かった。動画は簡単に作れるのでしょうか。
- 地域の飲食店へ自ら足を運ぶ行動力がすごいと思った。
- 地域の活性化に取り組むにあたり食に焦点を当てた取り組みをされていて面白い視点だなと感じた。
- フェスティバルへの参加や料理動画のアップロードなど、様々な活動で地域活性化に貢献してすごいと思った。
- 市との連携
- おいしそうな料理がたくさんあって、とても気になりました。
- しっかり活動している印象があった。学生が必ずしも起点ではないが、CBL、PBL、スタイルをとるならば、決して欠点ではないと思っている。指導教員がしっかりしておられるのかなと感じた。
- 継続をしている企画である点と発表形態も良く分かりやすい点が良かったと思います。
- チキラー、甘酒、コーンチキンスープ、市役所主体
- 学生さんが中心で企画・提案されている点がとても良いと思いました。

⑥大阪大学 【東日本大震災の被災地における子ども支援活動】

- 単体で動くのではなく複数大学と協力することによって実現可能性を上げていて良かった。この活動が広く認知されると良いと思った。
- 災害が怖いことを改めて感じました。
- 様々な問題に対処しているところに興味を持った。
- 地に足のついた活動である事がよくわかりました。子ども達のためにがんばってください。
- 南相馬市の復興において学生ができることを具体的に話していて支援活動の現状を知ることができた。
- 南相馬市からお金が出るといっても学生の自己負担額をほとんどなくするのは驚いた。住民を巻きこんで今後も期待したいです。
- 自分も実際に被災地にボランティアに行きましたが、企画のエビデンスについてまで考えた事がなかったのではやはりプロジェクトを起こす時には重視しようと思う。
- 被災地に向ける教育支援の重要性を感じることができました。継続化するための課題解決など私の知らない事をたくさん学べて良かったです。
- 被災地への復興支援活動。私も必ず参加してみたいと思っていたので興味深かったです。
- 被災地の学生のために支援を行っているという点に関心を持ちました。
- とても難しかったです。この話を聞いてなにかの役に立てようと思います。
- 被災地を思いやる気持ちに感激しました。金銭的なことや持続的な問題があると思いますが最善の結果になることを祈ります。
- かなりの情報量、難しさであり、話は大変上手かったが、内容が少し理解できなかった。
- 現地でのどのような事を行っているかもっと知りたくなった。
- 現地での大学生の活動内容が知りたかったです（宿題を見てあげるなど?）
- 明確な課題へのアプローチが的確であった。
- 被災地の子どもに対するエビデンスに基づいた活動をされていて大きなプロジェクトであることに加え子ども支援の必要性について考えさせられる発表でした。
- 大学とNPOの連携で大きなことをしていてすごいと思いました。
- また震災に対して考える時間ができてよかったです。
- 学生自身の意思で取り組むならこれくらい強い理念が必要。立派だと思う。現実はずしも理想と一致するわけではないので、やれるだけやって、あとは社会からの評価が自ずからついて来ることです。全く問題ない。
- 離れた地域での取り組みを知る機会となった。
- 大塚商会
- 現場のニーズと自分達にできることを十分に考える必要性を感じました。

⑦大阪人間科学大学 【大学理学療法学科学生が関わる地域連携事業】

- 理学療法学生ならではの視点でゲーム感覚で運動に取り組めるのは良いと思った。これからの社会問題に上手く視点を当てていたと思う。
- 高齢者の問題に着目したよい活動である。
- 実際に身体を動かしての実演がわかりやすかったです。
- 地域への健康活動が素晴らしいと感じました。
- 具体的なワークがよかったです。
- 医療の発展により寿命が延びている中、健康寿命を延ばすことの重要性が分かった。そのための事業も工夫が感じられた。
- 自身の大学の学びを活かした素敵な活動でした。
- 実際に高齢者が行っている運動を実践したことによってどのようなレベルでどのような活動を行っているのかよく理解できた。
- 健康寿命考えさせられます。
- ワークショップで体験したロコモ判定は意外と難しく、お年寄りではかなり大変であると思いました。私たちが今のうちからも運動の意識づけを考えようと思います。
- 両親の体も大事にしたいと感じた。もっと広がってほしい。
- 学生が主体となり健康寿命を伸ばす運動指導を行っているのが素晴らしかったです。ワークショップも楽しかったです。
- 健康寿命を伸ばす運動。普段から運動する事が好きなので、健康寿命を伸ばす運動を実践してみたいと思いました。
- 実際に学生たちが運動指導をしているという点に関心を持ちました。
- 説明だけでなく筋トレを聴講者に体験させることは斬新で良かったと思います。
- 健康長寿のための活動に関心を持ちました。
- 老人だけでなく若者でも身体能力が下落傾向にあると思っているのでこのような活動は本当に有意義なものだと思います。
- 実際に体を動かし、こういった形で取り組んでいたのかイメージしやすかった。
- 自治体や高齢者と連携していてとても良いなと思いました。
- もっと具体的な運動メニューが知りたいと思いました。
- マンションの住民規模での地域貢献がすごく良いと思った
- 運動指導でその人々に合わせていくと良いと思った。
- 身体のトレーニングは大事だと思います。
- 発表中に動きのある内容が含まれており良く分かり良い体験となった。
- スクワット、片足立ち、バイアス
- 大学の専門性を生かした活動で、今後もニーズが増える活動だと思います。

6. フォーラム全般の感想や意見

運営の皆様準備大変だと思います。ありがとうございます。
大阪市市民局のプレゼンテーションの文字データ、文書がもう少し欲しかった。
普段他大学の活動を知る機会はなかったので今後の活動のよい刺激にもなった。また、その他の取組等ぜひ聞かせていただきたいと思った。
この事業で発表された内容がどんどん広がり他の取り組みとつながっていければと思いました。
地域には課題と学びの場があります。いいイベントです。ぜひ続けてほしいです。
あまり知らなかった様々な大学の取り組みが知れておもしろかったです。
会場案内が少し分かりづらかったがフォーラム中は様々な活動が見れて良かった
概要集と発表用のスライドが大きく異なっている大学が多く、分かりにくい点が多々あったことだけ不満でした。
様々な大学の発表が聞けて楽しかったです。
学生さんの取り組みがすばらしい。
このイベントで他大学、また違った分野の方と話す機会を持ち新しい知見を広める事ができて良かったと思います。
今後またこのようなイベントがあればまた参加したいと思います。
考え方や一つの課題に対する多くの観点を得ることができた。次も参加したい。
他大学の学生の皆さんが取り組まれている様々な活動を知ることができて良かったです。学生間で交流をすることもできたので意見なども聞けて良かったです。
他大学の方々とこういった形で交流・親睦を図る事が出来て良かったです。今後もこういう行事があれば参加したいです。
他大学の学生が行っている活動を知る良い機会でもとても勉強になりました。
メッセージカードにメッセージを記入する際、ウラに両面テープが貼ってあるために書きづらかったです。また、メッセージカードにメッセージを考へて書きながら班のメンバーと会話するのは困難なので、メッセージカードは最後にまとめて書いてもらうなどをした方がいいと思いました。
ポスター発表等で小さなプロジェクトでも発表できる機会があればよい。発表内容が全体的に重厚になってハードルが高い。
他大学の人と交流ができてよかった。
上には上がいることを思い知らされる良い機会でした。本当に良い刺激をいただけました。
私の大学はあまり頭の良い大学とは言えませんが、阪大や京大、社会人の方々とお話することができて、とても刺激的だった。後は話の内容についていけるよう知識を蓄えたい。
色んな大学の人と話したり意見を聞いたりできて、とても勉強になりました。
もっと大規模な形でしてもいいと思った。
他大学の方と話すことはなかなかないので貴重な経験でした。
普段自分があまり関わりのない分野についての発表が多く、様々な形で地域と連携した活性化事業をされていることを知れた。今後働きだした時などに地域に対するアプローチの手段として用いることができればすごく有意義な時間だったということになるかと思った。

普段なかなか聞くことができない話を聞くことができよかったです。実際に自分で行くことができるボランティアや地域の特産なども食べてみたいと思いました。
とても勉強になった。続けて欲しいと思います。
学生有志による運営のようで大変な苦労があると思う（学生にも、そのサポートにあたる人にも）特に学生には良い学びの要素があるはず。ただし、サポートに入る人はもう少し運営学生のファシリテーションスキルを高めてあげて欲しい。このイベントの印象が改善されると感じた。
動員体制に問題があると感じました。参加学生のモチベーションを上げるためにも、もっとたくさんの参加者（聴衆）が必要であると感じます。
さまざまな意見を受け、とても参考になるアイデアを頂けた。また、興味深い活動を知ることができ、とても有意義に感じた。

7. 学生企画メンバーへのメッセージ

お疲れさまでした！！メッセージカード等を作ることで色々な人の感想を知ることができたので良かったです。
いい企画でした。ご苦労様でした。
お疲れさまでした。
いろいろと段取りありがとうございました。来年、席替えの点は学生の方も変われば良かったと思いました。
よく動いていました。
苦労もあると思いますが、ガンバってください！
企画・運営おつかれさまでした！ありがとうございました。
お疲れさまでした。またの機会があれば宜しくお願い致します。
素敵なお報告ありがとうございました。今後も継続して大阪を盛り上げてください。
控室や受付など発表の進行だけでなく、様々な準備をしてくださりありがとうございました。
お疲れさまでした。2月延期になり大変だったと思います。
本日は運営お疲れ様でした。前々から準備をして頂いたおかげでこのイベントが成り立っていると思います。司会・運営の方々ありがとうございました。
企画、運営、大変お疲れさまでした。フォーラムに参加できて良かったです。
面白い研究内容を聞くことが出来て良かったです。普段の事業では学べない貴重な事を沢山学びました。
自分から企画側に回って活動できることがすごいと思います。とても良いイベントになったと思います。
ミニ交流タイムの時や発表前に優しく話しかけてくださり気軽に取り組むことができたので良かったです。受付のときにメンバーが全員揃ってから受付をするように言う人、来た人から順に受付するように言う人など人によって言われることがバラバラだったのはわかりづかったです。
本日は長期に渡る準備のもと運営していただきありがとうございました。お疲れさまでした。
私も学生ではありますが、このようなイベントを企画・運営が出来るのは素直にすごいと思います。頑張ってください。
このような貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。

休みの日なのに、立派だと思います。

発表に際しての事前練習は大事です。個々に聞きやすい方とそうでない方があったので、聴衆（聞く側）に配慮した発声を心がけてください。

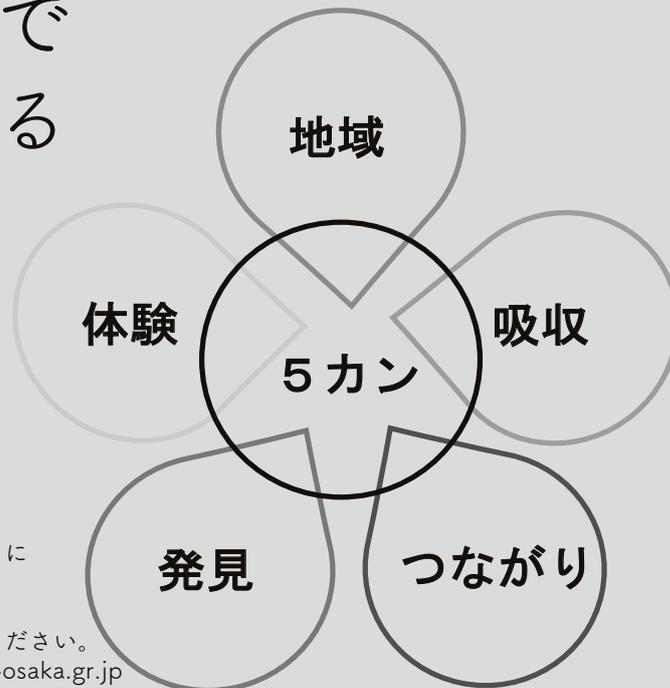
このフォーラムを開いていただき、ありがとうございました。私からは感謝の言葉しか伝えられませんが困ったこと、表明したいことがあれば気軽にお声かけ下さい。あなた方の意見を無下にすることは決してないでしょう。

地域連携学生フォーラム2019
学生発表団体募集！！

2019年10月13日（日）10：00～17：00
（予定）

※フォーラム終了後、交流会を開催予定。

地域と老若男女が
5カンで
つながる



《エントリー方法》

エントリーシート（別紙）に
必要事項を記入のうえ、
メール添付にて
下記アドレスへ送付してください。
chiiki-renkei@consortium-osaka.gr.jp
（大学コンソーシアム大阪
事務局 地域連携担当）
募集要項、エントリーシートは
大学コンソーシアム大阪の
ホームページより
ダウンロードしてください。

提出締切：

8月23日（金）17時必着

地域連携学生フォーラムとは！！

- ・ 学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やボランティア活動等について発表を行い、フォーラムを通じて他大学の学生と交流することによって地域連携に取り組む意欲の高揚を図るイベントです。
- ・ 地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体等で共有、発信することにより、会員大学の地域連携活動の活発化を目指しています。



5カンを通して参加者に届けよう！



テーマ5カンについて（挨拶）



初めまして。
 大阪地域コンソーシアム企画メンバーです。
 6回目となるフォーラム。今年のテーマは《5カン》です。
**【地域】活動での【体験】・【つながり】をしたことによって、
 【発見】や【吸収】できることがあったと思います。**
 我々だけでなく聴衆者ともつながれる機会を手に入れてみませんか？
 5つのテーマを五感で感じられる《5カン》
 またみなさまの学びの日となりますよう
 私たちも精一杯サポートさせていただきます。
 ご応募お待ちしております。



会場
 大阪工業大学 梅田キャンパス（OIT梅田タワー）
 2階 セミナー室（203・204）

【アクセスマップ】
<http://www.oit.ac.jp/institution/access/index.html>
 （大阪市北区茶屋町1番45号）

JR「大阪」駅から徒歩5分
 地下鉄御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
 地下鉄谷町線「東梅田」駅から徒歩5分
 阪急「梅田」駅から徒歩3分
 阪神「梅田」駅から徒歩7分



問い合わせ先
 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局（地域連携担当）
 電話：06-6344-9560（平日：月～金 9：30～17：30）
 メール：chiiki-renkei@consortium-osaka.gr.jp

延期開催決定！

地域

コンソ大阪

検索

体験

5カン

吸収

発見

つながり

5カンを通して地域とあなたが繋がる

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2019 観覧者募集!!

日時 2020年2月11日 (火・祝) 10:00～17:00 (予定)

場所 大阪学院大学 2号館 (大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号)



【交通アクセス】

<https://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

- ◆JR東海道本線「岸辺」駅から徒歩5分
- ◆阪急京都線「正雀」駅から徒歩5分

【申込方法】

下記のURLまたはQRコードから
申込フォームにアクセスのうえ
お申込みください。

<https://forms.gle/TheCyAujDk3Araff8>



【主催】

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

地域連携学生フォーラムとは！！

- ・学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やボランティア活動等について発表を行い、フォーラムを通じて他大学の学生と交流することによって、地域連携に取り組む意欲の高揚を図るイベントです。
- ・地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体等で共有、発信することにより、会員大学の地域連携活動の活発化を目指しています。



〈テーマ“5カン”とは〉

【地域】活動での【体験】・【つながり】をしたことによって、【発見】や【吸収】できたことを、様々な世代が五感で感じてほしい願いを込めました。

〈今回制作したロゴについて〉

地域活動で培われてきたノウハウを、様々な世代に興味をもってもらえるように。新たな活動のアイデアの種として芽吹くように。思いを込めて作成しました。



〈こんな発表が〉

- ・商店街大学（夏祭り企画）
- ・介助犬ひろばホームページ作成
- ・健康寿命延伸を目的とした地域在住高齢者への運動指導
- ・ふるさと納税の返礼品による缶詰の製品化をプロデュース
- ・「食」を通じた地域活性化に向けた取り組み～大阪池田チキチキ探検隊～
- ・子育て支援活動「もりもりひろば」
- ・介護予防活動「ほほえみクラブ」
- ・寝屋川の水辺を守る活動～大学と市民と行政の協働
- ・布施商店街活性化プロジェクト「ふ・せ・の・わ ～笑う商には学生来たる～」
- ・健康に関する困りごと相談等の高齢者支援活動「もりもりまちの保健室」



＼おまちしております！！／



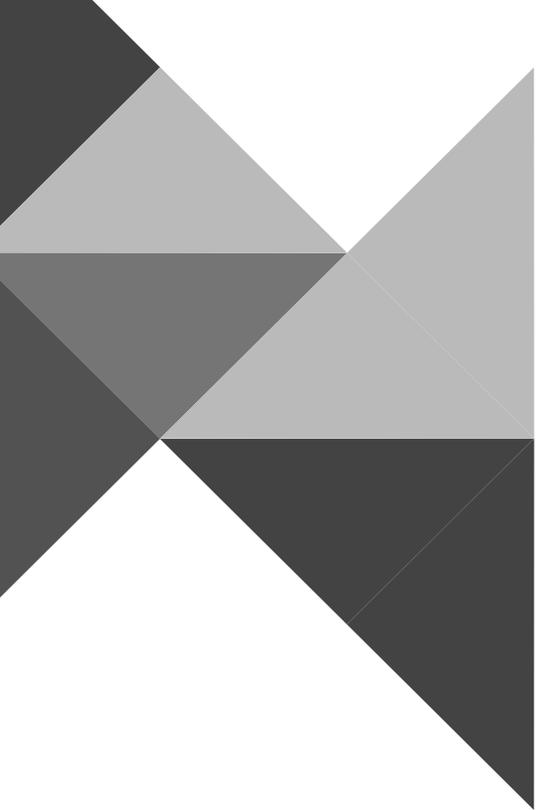
大学コンソーシアム大阪
地域連携学生フォーラム 公式Twitter
@ConsoForum2019

最新情報はこちらから
昨年度の活動や、
学生フォーラムの
裏側が見られるかも？!



【問い合わせ先】

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局（地域連携担当）
電話：06-6344-9560（平日：月～金 9：30～17：30）
メール：chiiki-renkei@consortium-osaka.gr.jp



特定非営利活動法人

大学コンソーシアム大阪

大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第 2 ビル 4 階

TEL : 06-6344-9560 FAX : 06-6344-9561

MAIL : chiiki-renkei@consortium-osaka.gr.jp (事務局 地域連携担当)

URL : <https://www.consortium-osaka.gr.jp/>